バスケットボールプラザ

Basketball Plaza *No.82*

2019年6月

NPO法人 日本バスケットボール振興会

目　次　予　定

○ 理事会と定期総会を開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

○ 「AKATSUKI FIVE」男子日本代表ワールドカップ本戦に進出・・・・・・・・・１４
　アジア予選第６ウィンドウで連勝してグループＦ を２位で通過

○ ワールドカップ中国 2019・出場チームと競技方式・・・・・・・・・・・・・・１８
　日本は第１ラウンドでＵＳＡと同一グループ

○ 井上一男とバスケットボールとの出会い・・・・・・・・・・・・・歴史部・・・２０
　1964 オリンピック東京大会の競技委員長

○ 先人の軌跡　植田義巳　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・普及部・・・２７
　1964 オリンピック東京大会バスケットボール競技の運営

○ 会員だより
　ベルリン・オリンピックの遺構を訪ねて・・・・・・・・・上谷　富彦・・・３１
　　バスケットボールが初めて公式種目になった大会

　1964 オリンピック東京大会の想い出・・・・・・・・・・・都﨑　修男・・・３３
　　女子バスケットボールをＰＲ

　リングに向かって“飛べ”10 年後の子供達・・・・・・・・鈴木　承二・・・３５
　　その４：川口市立東中学校バスケット部

○ Ｂリーグ 2018～19 シーズン結果　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３７

○ Ｗリーグ 2018～19 シーズン結果　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４１

○ ジャカルタ会１０年・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４２

○ 訃報・追悼文 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４３

○ 事務局だより ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４５

○ プラザ こぼればなし ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４６

理事会と定期総会を開催

［編集部］

平成３０年度事業活動報告と収支決算、令和元年度事業計画案と予算案などについて、定例の理事会と総会が開催され、いずれの議案についても原案通りに可決、承認された。

［理事会］

開催日時　　平成３１年４月９日（火）　１６～１７時３０分
開催場所　　東京都千代田区神田神保町１－４０　豊明ビル３Ｆ
　　ＮＰＯ法人日本バスケットボール振興会事務所
出 席 者　　（理事総数１９名）
　会　長　　大野 龍一
　副会長　　小澤 正博
　理事長　　渡邊 誠
　　以下、副理事長を含む理事１６名（委任状５名含む)、監事２名

定款３３条によって渡邊理事長が議長となり、別紙原案を審議し原案通りに承認された。

［総　会］

開催日時　　令和元年５月１６日（木）　１５時～１６時２０分
開催場所　　東京都千代田区神田駿河台　　池坊東京会館
出 席 者　　会長、副会長、理事長、副理事長、理事、監事、会員
　　会員総数１７３名に対し、出席３３名、委任状提出８６名で会員数の過半数により総会は成立
議事録署名者　蒲田尚史氏、佐々木正隆氏の２名

大野会長挨拶

昨年の総会で会長に選出され、佐室前会長から引き継いで、この１年間振興会発展のため真摯に取り組んでまいりました。

昨今、私たちを取り巻く情勢と振興会につきましては、多くの問題を抱えていると思いますが、皆さん方のご支援によって乗り切っていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

幸いにして 2020 東京オリンピックに男女とも開催国枠での出場が認められるなど、バスケットボール界にとって明るい話題もありますので、皆で前を向いて頑張っていきましょう。

１．平成３０年度事業活動報告　（渡邊理事長）

平成３０年度の事業活動は資料の通りで、全体的にはほぼ計画通り進めてきました。

１．日本バスケットボール協会への協力と提言
―― 日本バスケットボール協会の活動、事業への協力
２．バスケットボール競技団体への協力・支援
―― シニア、障がい者、ミニ、中体連など
３．バスケットボールの広報・啓発活動の推進
―― バスケットボールの日の活動支援、日本バスケットボール学会との連携など
４．日本のバスケットボールの歴史の調査研究と資料の収集
５．組織の充実と財政の確立
―― 会員の増強、助成事業などの見直しを実行し、財政の健全化を図る
６．会員相互の交流を図る

各部別活動実績

各部	事業内容	事業目標	30年度 事業計画	30年度 事業実績
総務部	振興会活動の発展支援	1) ＪＢＡ事業活動への協力と提言	・ ＪＢＡ、Ｂリーグ等との関係の維持・強化	・ 特になし
		2) メルマガの内容充実と会員の増強キャンペーンの実施	・ 広報部、編集部との協力の下、３ヶ月毎に発信 ・ 全国シニア交歓大会での積極的な勧誘他	・ 広報部・編集部の協力によりプラザ発信後に定期発信するほか世界選手権予選等訴求事項がある場合都度発信 ・ シニア大会での勧誘により9名が新規加入
		3) 会長・理事長の特命事項	・ バスケットボールの新たな展開への課題の対応 特に都道府県別ミュージアムの創設に注力	・ 都道府県別ミュージアムについては原案作成中、兵庫県に続き京都府を優先で取り組中
広報部	振興会の周知による会員増強施策	1) 本会の活動を多くのバスケットボール愛好者に正しく理解して頂く	・ 公式ホームページの下記項目の更新 ・ 国際大会、全国大会のスケジュールをカレンダーに掲載 ・ 振興会の活動予定、活動内容の告知 ・ プラザ広告掲載企業の広告バナーの配置	・ 特になし

広報部		2）本会の会員であることのメリットをアピールする	・総務部と連携してメールマガジンの会員を増やして発信 ・プラザ発行直後にメルマガを配信	・上記総務部記載2)参照
		3）ＪＢＡと連携しバスケットボール資料のデータベースを作成	・バスケットボール資料のデータベース作成	・特になし
		4）若年層のバスケットボール愛好者にも訴求するような広報の内容・手法を検討する	・事業目標に向けた具体的検討 ・入会促進リーフレットとカードのリニューアル	・特になし
		5）その他	・月刊バスケットボール誌を希望会員へ配布	・計画通り実施
歴史部	バスケットボール競技に関する歴史情報の収集と周知	1） 歴史的資料の収集・保管を継続する	・継続実施	・広報部3)に同じ
		2） 新企画のテーマとして競技施設の歴史的検討を取り上げる	・モントリオール・オリンピックの男子チームの座談会企画 ・ボールの歴史について学会にもヒアリング	・プラザ 80、81号の2回にわたり掲載
編集部	会報「バスケットボールプラザ」の編集と発行	1） 年間4回の定期発行 5月、8月、11月 及び翌年2月	・掲載記事充実のため、各号編集会議を複数回開催 ・紙面体裁の整備を図る	・６月、８月、11月、２月発行
		2） 関連する協会・連盟等の取材記事充実	・ＪＢＡをはじめとするバスケットボール関連各種団体と連携を密にして積極的に取材	・ＪＢＡとの連携不十分、次年度改善を努力
		3） 掲載記事内容の拡張と充実	(掲載記事の積極的な収集) ・振興会内部の各部門と連携し、案件を授受して特集記事に作成し編集 ・振興会会員に参加して頂くバスケットボール関連記事の発掘（情報提供、問題提起、建設的意見交換、自身の奮闘記事などの提供呼びかけ） ・その他会報に適切な記事の発掘	 ・歴史部、普及部の特集、その他の協力を得て掲載 ・記事の発掘努力、成果は十分といえず、更なる積極的行動を努力 ・テーマを挙げ検討中
		4） 有料掲載広告の獲得	・広く会員にお願いして種々の業種・団体と交渉 ・前年度実績以上の獲得を図る	・交渉を進めるが目標に未達

普及部	バスケットボール競技の普及・支援	1) シニア交歓大会の開催とシニアバスケットボール活動の助成	・代々木青少年スポーツセンターでシニア交歓大会in YOYOGI の開催（5月24日・25日）と助成 ・ゴールデンシニア交歓大会横浜カップ大会の助成	・計画通り実施 ・計画通り実施
		2) 障がい者バスケットボールの活動支援	・障がい者バスケットボールの活動支援	・特になし
		3) 中学生バスケットボールクリニック開催への協力	・中学生バスケットボール（初心者向け）クリニックに協力（世田谷区、京都市）、「シュートを上手になろう」とテーマを絞って開催 ・目黒区体育館主催のクリニックへ協力	・京都市(5月20日)、世田谷区(7月28日)で実施 ・目黒区は体育館の改修で未実施
		4) 「12月21日はバスケットボールの日」記念行事に協力	・代々木青少年スポーツセンターでの開催に協力	・1月13日東京都狛江市狛江市民体育館で実施
事務局	振興会活動の運営支援	1) 通常総会 （於:池坊東京会館）	・29年度活動報告/同左決算報告 ・30年度活動計画/同左予算案 ・春季交流会	・5月17日池坊東京会館で開催、32名参加
		2) 秋季講演会 （於:池坊東京会館）	・30年11月講演会及び秋季交流会	・11月16日、千葉ジェッツふなばしクラブ代表島田慎二氏を迎え、池坊東京会館で実施、テーマは「千葉ジェッツの奇跡」38名参加
		3) 理事会	・原則、年２回開催 （於：振興会事務所）	・4月と12月に実施
		4) 正副部長会	・原則、３ヶ月に１回開催 （於：振興会事務所）	・年4回実施
	事務の効率化運営	5) 会員の名簿管理、会費の管理	・会員の名簿管理、会費の管理に併せ会費の徴収を迅速に実施	・計画通り実施するも会費の未納は増加

平成３０年度会員動向

	平成２９年度末 (H30.3.31)	平成３０年度末 (H31.3.31)	増減	備考
個人会員	１７６名	１７３名	▲３名	新規会員１５名 退会者　１８名 （内、逝去者４名、 ２年以上会費未納６名〉
法人会員	９社	８社	▲１社	新規会員０社 退会会員１社

２．平成３０年度収支決算報告（別紙報告書　佐々木副理事長）

会員動向にもある通り、逝去者４名を含めて退会された方が多く、結果的に予算比で２８万円の会費収入減となり、経常収支で約８万円の赤字計上となってしまいました。

したがって、その分、次期繰越金からの充足となって、繰越金が７１万円余りに減りました。

平成30年度特定非営利活動に係る事業会計収支決算書

平成30年4月1日～平成31年3月31日　　（単位：円）

科　目	30年度予算	30年度決算	増　減	備　考
Ⅰ　経常収支の部				
1. 経常収入				
(1)会費収入				
正会員会費	1,600,000	1,370,000	▲ 230,000	
賛助会員会費	450,000	400,000	▲ 50,000	
会費収入計	2,050,000	1,770,000	▲ 280,000	
(2)事業収入				
広告掲載料	170,000	200,000	30,000	
月刊BB負担金	344,000	264,000	▲ 80,000	
各種販売益	0	10,500	10,500	
交流会・講演会	10,000	3,000	▲ 7,000	
シニア大会	325,000	370,568	45,568	
そ の 他	0	0	0	
事業収入計	849,000	848,068	▲ 932	
(3)寄 付 金	134,000	218,000	84,000	
(4)雑 収 入	90,000	68,676	▲ 21,324	
(5)受取利息	0	38	38	
経常収入計	3,123,000	2,904,782	▲ 218,218	
2. 経常支出				
(1)事 業 費				
広報・啓発活動費	1,107,000	1,149,645	42,645	
普及支援活動費	390,000	264,423	▲ 125,577	
協力及び提言活動費	0	0	0	
調査・研究活動費	50,000	74,280	24,280	
その他活動費	50,000	63,860	13,860	
事業費計	1,597,000	1,552,208	▲ 44,792	
(2)管理費				
会議費	100,000	35,418	▲ 64,582	
通信費	195,000	152,605	▲ 42,395	
水道光熱費	60,000	59,229	▲ 771	
事務所借用費	660,000	650,340	▲ 9,660	
租税公課	0	0	0	
雑 費	0	0	0	
その他事務所運営費	400,000	539,162	139,162	
管理費計	1,415,000	1,436,754	21,754	
経常支出計	3,012,000	2,988,962	▲ 23,038	
3. 経常収支差額	111,000	▲ 84,180	▲ 195,180	
Ⅱ　その他資金収支の部				
1. その他資金収入				
その他資金収入計	0	0	0	
2. その他資金支出				
その他資金支出計	0	0	0	
当期収支差額	111,000	▲ 84,180	－	
前期繰越収支差額	796,175	796,175	0	
次期繰越収支差額	907,175	711,995	▲ 195,180	

特定非営利活動に係る事業会計貸借対照表

NPO法人　日本バスケットボール振興会　　［税込］（単位：円）

2019年 3月31日 現在

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
【流動資産】		【流動負債】	
（現金・預金）		仮受金	30,000
現金	17,617	流動負債 計	30,000
普通 預金	239,228	負債の部合計	30,000
三菱UFJ銀行	(139,549)	正味財産の部	
みずほ銀行	(99,679)	【正味財産】	
振替 貯金	284,749	正味 財産	711,995
ゆうちょ銀行	(284,749)	（うち当期正味財産増加額）	△84,180
現金・預金 計	541,594	正味財産 計	711,995
流動資産合計	541,594	正味財産の部合計	711,995
【固定資産】			
（投資その他の資産）			
長期 預金	200,401		
三菱UFJ銀行	(200,401)		
投資その他の資産 計	200,401		
固定資産合計	200,401		
資産の部合計	741,995	負債・正味財産の部合計	741,995

３．監査報告

下記報告書に従い、黒川監事より会計監査報告がなされた。

会計監査報告書

特定非営利活動法人　日本バスケットボール振興会の平成３０年４月１日から平成３１年３月３１日までの会計処理について監査の結果、適正に処理されていることを認めます。

平成３１年４月９日

監事　黒川敏雄

監事　都﨑喬男

４．令和元年度事業活動計画　（渡邊理事長）

１．日本バスケットボール協会への協力と提言

―― 日本バスケットボール協会の活動、事業への協力

２．バスケットボール競技団体への協力・支援

―― シニア、障がい者、ミニ、中体連など

３．バスケットボールの広報・啓発活動の推進

―― バスケットボールの日の活動支援、日本バスケットボール学会との連携など

４．日本のバスケットボールの歴史の調査研究と資料の収集

５．組織の充実と財政の確立

―― 会員の増強、助成事業などの見直しを実行し、財政の健全化を図る

６．会員相互の交流を図る

各部別活動計画　（各部長、欠席の部はその代理者）

各部	事業内容	事業目標	元年度　事業計画
総務部	振興会活動の発展支援	1)　ＪＢＡ事業活動への協力と提言	・ ＪＢＡ、Ｂリーグ、Ｗリーグ等との関係の維持・強化 ・ Ｂリーグチームの社会貢献活動への参加提言 （バスケさわやか広場）
		2) メルマガの内容充実と会員の増強キャンペーンの実施	・ 広報部、編集部と協力の下、３ヶ月毎に発信 ・ シニア交歓大会、医学リーグ、同好会チームでの積極的な勧誘他
		3)　会長、理事長の特命事項	・ バスケットボールの新たな展開への課題の対応 ・ 都道府県別ミュージアムの創設・発展に注力
広報部	振興会の周知による会員増強施策	1) 本会の活動を多くのバスケットボール愛好者に正しく理解して頂く	・ 公式ホームページの下記項目の更新と新設 ・ 国際大会、全国大会のスケジュールをカレンダーに掲載 ・ 振興会の活動予定、活動内容の告知 ・ プラザ広告掲載企業の広告バナーの配置
		2) 本会の会員であることのメリットをアピールする	・ 総務部と連携してメールマガジンの会員を増やして発信 ・ プラザ発行直後にメルマガを配信
		3) ＪＢＡと連携しバスケットボール資料のデータベースを作成する	・ バスケットボール資料のデータベース作成
		4) 若年層のバスケットボール愛好者にも訴求するような広報の内容・手法を検討する	・ 事業目標に向けた具体的検討 ・ 入会促進リーフレットとカードのリニューアル
		5) その他	・ 月刊バスケットボール誌を希望会員へ配布

歴史部	バスケットボール競技に関する歴史情報の収集と周知	1) 歴史的資料の収集・保管を継続する	・継続実施
		2) 新企画のテーマとして競技施設の歴史的検討を取り上げる	・リング・コートなどの歴史のまとめ ・モントリオールＯＬＰ男子チームの座談会企画
編集部	会報「バスケットボールプラザ」の編集と発行	1) 年間４回、四半期ごとの定期発行	・掲載記事充実のため、編集会議を複数回開 ・紙面体裁の整備を図る
		2) 関連する協会・連盟等の取材記事充実	・ＪＢＡをはじめとするバスケットボール関連各種団体と連携を密にして積極的に取材
		3) 掲載記事内容の拡張と充実	(掲載記事の積極的な収集) ・振興会内部の各部門と連携し案件を授受し特集記事に作成して編集 ・振興会会員に参加して頂くバスケット関連記事の発掘（情報提供、問題提起、建設的意見交換、自身の奮闘記事などの提供呼びかけ） ・その他会報に適切な記事の発掘
		4) 有料掲載広告の獲得	・広く会員にお願いして種々の業種・団体と交渉 ・前年度実績以上の獲得を図る
普及部	バスケットボール競技の普及・支援	1) シニア交歓大会の開催とシニアバスケットボール活動の助成	・代々木青少年スポーツセンターでシニア交歓大会in YOYOGIの開催（7月4日・5日）と助成 ・ゴールデンシニア交歓大会横浜カップ大会の助成
		2) 障がい者バスケットボールの活動支援	・第1回ユニファイドバスケットボール大会への協力
		3) 中学生バスケットボールクリニック開催への協力	・中学生バスケットボール（初心者向け）クリニックに協力（5月京都市、7月世田谷区）、「シュートを上手になろう」とテーマを絞って開催
		4) 「12月21日はバスケットボールの日」記念行事に協力	・12月15日狛江市民総合体育館での開催に協力
事務局	振興会活動の運営支援	1) 通常総会（於:池坊東京会館）	・30年度活動報告/同左決算報告 ・元年度活動計画/同左予算案 ・春季交流会
		2) 秋季講演会（於:池坊東京会館	・元年11月講演会及び秋季交流会
		3) 理事会	・原則、年２回開催（於：振興会事務所）
		4) 正副部長会	・原則、３ヶ月に１回開催（於：振興会事務所）
	事務運営の効率化	5) 会員の名簿管理、会費の管理	・会員の名簿と会費の管理に併せ、会費の徴収を迅速に実施

５．令和元年度特定非営利活動に係る事業会計収支予算書　（佐々木副理事長）

平成31年4月1日～令和2年3月31日　（単位:円）

科　目	30年度予算	30年度実績	元年度予算	対30年度予算比	対30年度実績比	備　考
Ⅰ　経常収支の部						
1. 経常収入						
(1)会費収入						
正会員会費	1,600,000	1,370,000	1,550,000	▲ 50,000	180,000	
賛助会員会費	450,000	400,000	400,000	▲ 50,000	0	
会費収入計	2,050,000	1,770,000	1,950,000	▲ 100,000	180,000	
(2)事業収入		0			0	
広告掲載料	170,000	200,000	200,000	30,000	0	
月刊BB負担金	344,000	264,000	304,000	▲ 40,000	40,000	
各種販売益	0	10,500	0	0	▲ 10,500	
交流会・講演会	10,000	3,000	10,000	0	7,000	
シニア大会	325,000	370,568	350,000	25,000	▲ 20,568	
そ の 他	0	0	0	0	0	
事業収入計	849,000	848,068	864,000	15,000	15,932	
(3)寄 付 金	134,000	218,000	118,000	▲ 16,000	▲ 100,000	
(4)雑 収 入	90,000	68,676	42,000	▲ 48,000	▲ 26,676	
(5)受取利息	0	38	0	0	▲ 38	
経常収入計	3,123,000	2,904,782	2,974,000	▲ 149,000	69,218	
2. 経常支出		0			0	
(1)事 業 費		0			0	
広報・啓発活動費	1,107,000	1,149,645	1,082,000	▲ 25,000	▲ 67,645	
普及支援活動費	390,000	264,423	252,000	▲ 138,000	▲ 12,423	
協力及び提言活動費	0	0	0	0	0	
調査・研究活動費	50,000	74,280	120,000	70,000	45,720	
その他活動費	50,000	63,860	50,000	0	▲ 13,860	
事業費計	1,597,000	1,552,208	1,504,000	▲ 93,000	▲ 48,208	
(2)管理費		0			0	
会議費	100,000	35,418	70,000	▲ 30,000	34,582	
通信費	195,000	152,605	150,000	▲ 45,000	▲ 2,605	
水道光熱費	60,000	59,229	60,000	0	771	
事務所借用費	660,000	650,340	660,000	0	9,660	
租税公課	0	0	0	0	0	
雑 費	0	0	0	0	0	
その他事務所運営費	400,000	539,162	450,000	50,000	▲ 89,162	
管理費計	1,415,000	1,436,754	1,390,000	▲ 25,000	▲ 46,754	
経常支出計	3,012,000	2,988,962	2,894,000	▲ 118,000	▲ 94,962	
3. 経常収支差額	111,000	▲ 84,180	80,000	▲ 31,000	164,180	
Ⅱ その他資金収支の部		0			0	
1. その他資金収入		0			0	
その他資金収入計	0	0	0	0	0	
2. その他資金支出		0			0	
その他資金支出計	0	0	0	0	0	
当期収支差額	111,000	▲ 84,180	80,000	▲ 31,000	164,180	
前期繰越収支差額	796,175	796,175	711,995	▲ 84,180	▲ 84,180	
次期繰越収支差額	907,175	711,995	791,995	▲ 115,180	80,000	

６．定款変更　（蒲田副理事長）

平成３０年１０月１日施行のＮＰＯ法の改正により、貸借対照表の公告が義務付けされたことにより、定款第５２条について次の通り変更するもの

新	旧
（公告） 第５２条 同右 ただし、法第２８条の２第１項に規定する貸借対照表の公告については、この法人の掲示場に掲示して行う。 附則 ８．この変更（第５２条公告）は、令和元年５月１６日から施行し、平成３０年１０月１日から適用する。	（公告） 第５２条　この法人の公告はこの法人の掲示場に掲出するとともに、官報、インターネットホームページ等により行う。

７．役員の新任・退任　（渡邊理事長）

（１）新任

氏　名	役　職	新任理由
鈴木　承二	理　事	普及部長として、普及の充実・強化を図るため

（２）退任

氏　名	役　職	退任理由
坂本　博	理　事	平成３１年３月１０日　逝去

以上の結果、特なる反対者はなく、全ての議題について原案通り承認された。

＜質問・意見＞

Ｑ：賛助会員（法人会員）になると何らかのメリットがあるのか？　機関紙に広告を掲載するなどメリットを検討すべき。

Ｑ：会員動向の詳細がわからない。誰が会員になっているのか、せめて氏名だけでも機関紙に掲載した方が良い。

Q：昨年も申し上げたが、活動内容に魅力がないのではないかと感じる。国際大会のことや 2020 東京オリンピックへ男女とも出場が決まったことなど、良いこと、楽しいことなどを会員に周知すべきである。
Q：毎年赤字となって繰越金が減っている。このままでは５年後位に窮地に瀕してＮＰＯ法人として成り立たなくなる可能性がある。会員増強を含めて何らかの対応策に取り組むべきである。
Q：定款の変更については、監督官庁への届け出が必要かも知れないので検討方。
Ａ：法人会員へのメリットについては、プラザへの広告掲載などを検討し、会員の氏名についてもプラザ上で公表してもよいと考える。
会員への情報提供については更にリアルタイムで行えないか検討する。
振興会の監督官庁は東京都なので、届け出の際確認をしてきたい。
会員増強については、常なる課題であるので良い知恵があったら交流会の場でもよいので、意見を頂きたい。

会員交流会

総会終了後、恒例の交流会が開催され、佐室前会長の乾杯の音頭に続いて、総会での質問・意見に関する話合いなども活発に行われた。

「AKATSUKI FIVE」男子日本代表ワールドカップ本戦に進出

アジア予選第６ウィンドウで連勝してグループＦを２位で通過

［編集部］

第５ウィンドウまでの経過

FIBA バスケットボールワールドカップ 2019 アジア地区大会で男子日本代表は、第１ウィンドウ、第２ウィンドウと４連敗したが、第３ウィンドウではファジーカス ニック選手と八村塁選手の活躍で得点力が向上すると共にディフェンスも安定して連勝し、一次予選を通過した。

二次予選の第４ウィンドウではファジーカス選手が欠場して得点力が減少したがアメリカで活躍中の渡辺雄太選手が加わり、大事なイラン戦でディフェンスにも頑張りを見せて７０－５６で完勝した。第５ウィンドウの２試合は八村選手、渡辺選手が不参加となったが、ファジーカス選手が復帰して連勝し、グループＦの３位に入った。

第６ウィンドウの成績

試合の前日に発表された第６ウィンドウの日本代表選手１２名は下記の通りであり、スタッフは従来と同一のメンバーである。

＜「AKATSUKI FIVE」選手＞　　＊年齢・所属は2019年2月23日現在

	NO	選手名	P	身長 cm	体重 kg	年齢 歳	所　属
	2	富樫　勇樹	ＰＧ	167	65	25	千葉ジェッツ
	3	辻　直人	ＳＧ	185	82	29	川崎ブレイブサンダース
	6	比江島　慎	ＳＧ	190	88	28	栃木ブレックス
	7	篠山　竜青	ＰＧ	178	78	30	川崎ブレイブサンダース
	8	太田　敦也	Ｃ	206	112	34	三遠ネオフェニックス
＊	9	ベンドラメ　礼生	ＰＧ	183	80	25	サンロッカーズ渋谷
	10	竹内　公輔	ＰＦ	206	100	34	栃木ブレックス
	15	竹内　譲次	ＰＦ	207	98	34	アルバルク東京
	18	馬場　雄大	ＳＦ	198	90	23	アルバルク東京
	22	ファジーカス　ニック	Ｃ	210	111	33	川崎ブレイブサンダース
	24	田中　大貴	ＳＧ	192	93	27	アルバルク東京
＃	51	古川　孝敏	ＳＧ	190	92	31	琉球ゴールデンキングス
	88	張本　天傑	ＳＦ	197	102	27	名古屋ダイヤモンドドルフィンズ
		平　均		193	91.6	29.2	

エントリー
＊：カタール戦 のみ
＃：イラン戦 のみ

PG ポイントガード、 SG シューティングガード、
SF スモールフォワード、PF パワーフォワード、 C センター

この２試合は、下記のように連勝を続け、イランに２勝してグループＦで２位となり、ワールドカップ中国 2019 の本戦へ進出することとなった。

［アウェーゲーム］

２月２１日

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
イラン	28	17	22	22	89
日本	35	20	23	19	97

第１クォーター開始直後の日本は、ゾーンディフェンスで厳しくイランをマークしてシュートを抑える一方、＃６比江島の積極的な攻めで連続得点するも、イランの追い上げで、５分半過ぎに１９－１７と詰められる。ここから日本はディフェンスをマンツーマンに切り替えるが、残りほぼ３分で２２－２１の１点差となる。ここから＃22 ファジーカスのディフェンスリバウンドとシュートが冴え、＃６比江島も得点を重ねて３５－２８と７点をリードする。第２クォーター、日本は、ディフェンスからの速攻で＃18 馬場のダンクなどを交え、残り３分には５１－３８の１３点差とリードを拡げ、前半を、５５－４５と１０点のリードで終わる。前半で、＃22 ファジーカスが１４点、＃６比江島が１２点を稼ぎ、３ポイントシュートはなんと７本中５本の成功率７１％を達成する。

第３クォーター、＃22 ファジーカスが得点し、＃15 竹内が走るも、イランのシューター＃13 の活躍があって、開始後３分半で６１－５５と６点差まで詰められる。その後、日本は、全員で走り、残り２分に１４点差としたが、７８－６７の１１点リードで終わる。

第４クォーター、日本は残り５分ほどで８９－７１と１８点をリードするが、その後はイランの当たりが激しく、イラン＃20 が連続３ポイントシュートを決めたのに対して日本は＃22 ファジーカスが疲れからかシュートを決められない。その結果、日本は徐々に得点を詰められるが逆転されることなく、結局、９７－８９の６点リードで勝利する。

終わってみれば、日本は、＃22 ファジーカスが２４点、＃６比江島が２４点、＃15 竹内が１７点を稼ぎ、フリースロー８５％、３ポイントシュート５０％、２ポイントシュート６４％の高いシュート成功率であった。ちなみに、イランは７９％、２７％、５０％である。日本のリバウンドは、ディフェンスで２６個と＃22 ファジーカス、＃15 竹内、＃８太田が頑張ってイランの２２個を超えたが、オフェンスではイランの２３個に対し３個のみと課題が残された。

［アウェーゲーム］

２月２４日

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
カタール	8	17	9	14	48
日本	15	27	22	32	96

第１クォーター、日本は、ゾーンディフェンスからボールにプレッシャーをかけるマンツーマンでカタールを抑えるが、カタールのゾーンディフェンスにシュートが決まらず、開始４分で７－５という低スコアであった。第２クォーターに入ると日本は３ポイントシュートをはじめシュートが決まりだすと共にディフェンスからの速攻が冴え、前半、４２－２５と１７点をリードする。

後半も、日本は、激しいディフェンスでボールを奪って速攻を繰り出し、＃15 竹内をはじめとして、メンバー全員が走り込むというスピードあるプレイを最後まで展開し、結局、全員出場によるダブルスコアで勝利した。

日本は、＃22 ファジーカスが２０点、＃６比江島と＃３辻が１１点、＃18 馬場が１１点を稼ぎ、フリースロー８０％、３ポイントシュート５６％、２ポイントシュート５８％の高いシュート成功率であった。ちなみに、カタールは６２％、２１％、２９％と低調であった。日本のリバウンドは、ディフェンスで３６個と＃22 ファジーカス、＃15 竹内が頑張ってカタールの１８個を超えたが､オフェンスでは相変わらずカタールの１５個に対し７個のみとイラン戦同様の課題が残されている。

グループＦ　２次予選終了での総合成績

上段ホーム・下段アウェー

順位	チーム	ＡＵＳ	ＪＰＮ	ＩＲＩ	ＰＨＩ	ＫＡＺ	ＱＡＴ	一次予選引き継ぎ	勝	負
1	オーストラリア		○ 82 － 58 ● 78 － 79	○ 76 － 47 ● 74 － 85	○ 84 － 68 ○ 89 － 53	○ 94 － 41 ○ 81 － 60	○ 110－ 59 ○ 95 － 43	○ ○	10	2
2	**日本**	○ 79 － 78 ● 58 － 82		○ 70 － 56 ○ 97 － 89	● 71 － 77 ● 84 － 89	○ 86 － 70 ○ 85 － 70	○ 85 － 47 ○ 96 － 48	● ○	8	4
3	イラン	○ 85 － 74 ● 47 － 76	● 89 － 97 ● 56 － 70		○ 81 － 73 ○ 78 － 70	○ 88 － 56 ○ 75 － 54	○ 65 － 39 ○ 77 － 75	○ ●	8	4
4	フィリピン	● 53 － 89 ● 68 － 84	○ 89 － 84 ○ 77 － 71	● 70 － 78 ● 73 － 81		● 88 － 92 ○ 93 － 75	○ 92 － 81 ○ 84 － 46	○ ○	7	5
5	カザフスタン	● 60 － 81 ● 41 － 94	● 70 － 85 ● 70 － 86	● 54 － 75 ● 56 － 88	● 75 － 93 ○ 92 － 88		○ 96 － 63 ○ 82 － 70	○ ●	4	8
6	カタール	● 43 － 95 ● 59 －110	● 48 － 96 ● 47 － 85	● 75 － 77 ● 39 － 65	● 46 － 84 ● 81 － 92	● 70 － 82 ● 63 － 96		○ ○	2	10
		● 66 －104 ● 68 － 88	● 68 －108 ○ 70 － 69	○ 74 － 66 ● 53 － 83	● 71 － 93 ● 83 － 90	○ 64 － 50 ● 76 － 82	● 66 － 77 ● 79 － 84			
		タイペイ	タイペイ	イラク	タイペイ	イラク	イラク			

男子日本代表への期待

予選の最終第６ラウンドを見ると、長身のファジーカス選手が加わって得点とリバウンドに大幅な向上が見られるだけでなく、他の代表選手も、得点への執着力を持ったシュートと厳しいディフェンスの意識に大きな変化が感じられる。アメリカから参加の渡辺選手、八村選手によるプレイを目にし、肌に感じて学んだものと思われる。しかし、更に、他の選手の得点への執着意欲で、ファジーカス選手や比江島選手のシュート成功率や獲得点を超えることこそ、日本が世界上位に進出するために望まれることである。

８月末から９月中旬にかけての中国での本戦では、アメリカで活躍する八村選手、渡辺選手の参加が可能とのこと、日本代表のワールドカップ本戦における躍進が楽しみである。また、外国で活躍の日本国籍選手には、ほかに若手有力メンバーも噂されているので、東京オリンピック（2020 年７月下旬～８月上旬）も大いに期待できそうである。

ワールドカップ本戦出場チーム

中国で 2019 年８月３１日から９月１５日まで開催されるワールドカップ本戦に出場するのは、各地区大会を勝ち抜いた３２チームである。

アジアからは、グループＥから１位ニュージーランド、２位韓国、３位ヨルダンと開催国中国、グループＦから１位オーストラリア、２位**日本**、３位イラン、４位フィリピンの８チームが出場する。

ワールドカップ本戦競技方式

グループフェイズ第１ラウンド（一次リーグ）　８月３１日～９月５日

出場の３２チームは、グループＡ～Ｈ（８グループ各４チーム）に編成され、グループごとの総当たり戦で、各グループ上位２チームの計１６チームが第２ラウンドへ進む。

日本は下記のようにグループＥに入った。

日本の対戦相手・日程

下段は世界ランク

グループＥ	トルコ	チェコ	ＵＳＡ	日本	開催都市
	17位	24位	１位	48位	上海
対戦日	９月１日(日)	９月３日(火)	９月５日(木)		

日本と対戦するトルコはヨーロッパ地区グループＩの２位、チェコはヨーロッパ地区グループＫの３位であり、これらを撃破しないと第１ラウンドを突破できない。

日本の世界ランク４８位はアジア予選の開始直後の４ゲーム連敗が響いており、その後、２７位イランを制し、１１位オーストラリアと互角に闘った実力は、渡辺雄太、八村塁のアメリカ勢を加えた完璧体制であれば、第２ラウンド進出も夢ではない。

グループフェイズ第２ラウンド（二次リーグ）　９月６日～９月９日

第１ラウンド突破の１６チームは、第１ラウンドでの２グループごとにグループＩ～Ｌ（４グループ各４チーム）に編成され、日本が含まれるグループＥの勝者はグループＦの勝者とグループＫに組み込まれる。グループＦには８位ギリシャ、１２位ブラジル、２８位モンテネグロ、３８位ニュージーランドが入る。

第１ラウンドで別グループであった相手と対戦して各グループ上位２チームの計８チームが決勝トーナメントであるファイナルフェイズへ進む。

ファイナルフェイズ（決勝トーナメント）　９月１０日～９月１５日

８チームの勝ち上がり形式による対戦で、優勝・準優勝が決まる。

2020 東京オリンピックに開催国枠で出場

ＦＩＢＡは、３月３０日にコートジボワールで開かれた理事会で、東京 2020 競技でのオリンピック バスケットボールと３×３バスケットボールトーナメントに男子と女子の日本代表チームが出場できると発表した。

オリンピックはワールドカップと異なり、日程などとの関係から出場チーム数は１２で、出場権をめぐって厳しい競争になっている。

男子日本代表は 1976 年モントリオール大会以来４４年ぶり７回目であり、女子は２大会連続５回目の出場となる。

ワールドカップ 中国 2019・出場チームと競技方式

日本は第１ラウンドでＵＳＡと同一グループ

［編集部］

ワールドカップ本戦出場チーム

中国で 2019 年８月３１日から９月１５日まで開催されるワールドカップ本戦に出場する３２チームが、各地区の大会を２月に終了して下記のように決定した。

各地区のチーム名はアルファベット順

下欄：地区大会グループ順位・世界ランク（2019.02.26.）

開催地 1					
	中国				
	Ｅ４・30位				
アフリカ地区 5	アンゴラ	ｺｰﾄｼﾞﾎﾞﾜｰﾙ	ナイジェリア	セネガル	チュニジア
	Ｅ２・39位	Ｆ３・64位	Ｆ１・33位	Ｆ２・37位	Ｅ１・51位
アメリカ地区 7	アルゼンチン	ブラジル	カナダ	ドミニカ	プエルトリコ
	Ｅ２・５位	Ｆ３・12位	Ｆ１・23位	Ｆ４・18位	Ｅ３・16位
	ＵＳＡ	ベネズエラ			
	Ｅ１・１位	Ｆ２・20位			
アジア地区 7	オーストラリア	イラン	**日本**	ヨルダン	韓国
	Ｆ１・11位	Ｆ３・27位	Ｆ２・48位	Ｅ３・49位	Ｅ２・32位
	ﾆｭｰｼﾞｰﾗﾝﾄﾞ	フィリピン			
	Ｅ１・38位	Ｆ４・31位			
ヨーロッパ地区 12	チェコ	フランス	ドイツ	ギリシャ	イタリア
	Ｋ３・24位	Ｋ１・３位	Ｌ２・22位	Ｌ１・８位	Ｊ２・13位
	リトアニア	モンテネグロ	ポーランド	ロシア	セルビア
	Ｊ１・６位	Ｉ３・28位	Ｊ３・25位	Ｋ２・10位	Ｌ３・４位
	スペイン	トルコ			
	Ｉ１・２位	Ｉ２・17位			

競技方式

グループフェイズ第１ラウンド（一次リーグ）　８月３１日～９月５日

出場の３２チームは、グループＡ～Ｈ（８グループ各４チーム）に編成され、グループごとの総当たり戦で、各グループ上位２チームの計１６チームが第２ラウンドへ進む。

Ａ～Ｈの各グループは、ワールドカップ地区大会の成績と世界ランクに基づいて振り分けられ、かつ地区大会で同一グループのチームが重ならないように配慮される。

出場チームのグループ分け

					開催都市
グループＡ	ｺｰﾄｼﾞﾎﾞﾜｰﾙ	ポーランド	ベネズエラ	中国	**北京**
グループＢ	ロシア	アルゼンチン	韓国	ナイジェリア	**武漢**
グループＣ	スペイン	イラン	プエルトリコ	チュニジア	**広州**
グループＤ	アンゴラ	フィリピン	イタリア	セルビア	**佛山**
グループＥ	トルコ	チェコ	ＵＳＡ	**日本**	**上海**
グループＦ	ギリシャ	ﾆｭｰｼﾞｰﾗﾝﾄﾞ	ブラジル	モンテネグロ	**南京**
グループＧ	ドミニカ	フランス	ドイツ	ヨルダン	**深圳**
グループＨ	カナダ	セネガル	リトアニア	オーストラリア	**東莞**

グループフェイズ第２ラウンド（二次リーグ）　９月６日～９月９日

第１ラウンドで上位２チームの合計１６チームは、第１ラウンドでのグループＡ／Ｂ、Ｃ／Ｄ、Ｅ／Ｆ、Ｇ／Ｈの２グループごとにグループＩ～Ｌ（４グループ各４チーム）に編成され、第１ラウンドで別グループであった相手と対戦する。

その結果、各グループ上位２チームの計８チームが決勝トーナメントのファイナルフェイズへ進む。

ファイナルフェイズ（決勝トーナメント）　９月１０日～９月１５日

８チームが勝ち上がり形式で対戦して優勝・準優勝が決まる。

この間、敗者による順位決定戦があり、３位から８位までが決まる

下位チームの順位付け　９月６日～９月９日

第２ラウンドの結果、グループ３位はＷＣ９位～１２位、グループ４位はＷＣ１２位～１６位となる。第１ラウンドでの敗者１６チームは、各グループ下位２チームが上記第２ラウンド同様にグループ分けされて対戦し、各グループ内での順位が決められる。その結果、グループ１位がＷＣ１７位～２０位、グループ２位がＷＣ２１位～２４位、グループ３位がＷＣ２５位～２８位、グループ４位がＷＣ２９位～３２位となる。

グループ対応で同位の４チームは、本大会での勝敗数、得失点などの戦績に基づくＦＩＢＡルールに従って順位付けされ、最終順位、１位から３２位までが公表される。

2020 東京オリンピック出場推薦枠

2020 東京オリンピック・バスケットボール競技にはワールドカップ上位７チームが推薦されることとなっている。その他の出場チームは、2020 年６月のアフリカ、アメリカ、アジア、ヨーロッパの４地区におけるオリンピック予選トーナメントを勝ち抜いた各１チーム（合計４チーム）と開催国枠１チーム（日本）の合計５チームで、オリンピックには１２チームが出場する。

井上一男とバスケットボールとの出会い

1964 オリンピック東京大会の競技委員長

［歴史部］

第１８回オリンピック東京大会（1964 年）では誘致に携わるとともに試合では競技委員長を務められ、関東実業団バスケット連盟の盛り上げに活躍され、振興会会員でもあった井上一男さんがバスケットボールと出会った経緯など、ご自分でまとめられた手記がみつかったので、以下に紹介する。

井上さんは、東京文理科大学（現筑波大学）時代に東京文理大の黄金期を築き、大学卒業後に文部省に在ってバスケットボール以外にも数々のスポーツを担当し、多数の著書を執筆されるなど、活躍された。

井上一男さんのプロフィール

大正　７年（1918）７月、山形県東村山郡生まれ。
昭和１７年（1942）東京高等師範学校を卒業し、直ちに宮城県師範学校教諭に任官。
昭和２３年（1948）東京文理科大学を卒業。
昭和２３年（1948）文部省体育局体育科勤務、バスケットボールをはじめ数々のスポーツを担当。
昭和３１年（1956）福島大学に任官。「体育原理」と「バスケットボール」の助教授。
昭和３４年（1959）文部事務官行政職として勤務。
昭和３９年（1964）第１８回東京オリンピック大会の準備に忙殺。
昭和４２年（1967）文部省登山研修所長に就任。
昭和４５年（1970）東海大学教授に就任。
昭和５１年（1976）関東男子学生バスケットボール連盟会長就任。
昭和６３年（1988）勲三等瑞宝章を受章。
平成２５年（2013）７月２０日没、享年９５。

著書

『バスケットボール』
『冬山登山指導者養成のカリキュラム』
『高校球技の指導』　　ほか多数

井上　一男

１、私とバスケットボールとの出会い

私は大正１４年４月に、明治小学校尋常科１年に入学した。私が入学した頃の明治小学校は、古い木造校舎で狭い建物であった。児童数も少なく、各学年１学級で編成され、男女共学であった。私が５年生の終り頃、昭和５年に新校舎が落成した。以前とは比較にならない程、広々とした建物である。雨天体操場（現在は体育館と呼ぶ）も広々とし、天井の梁も高く、開放感に満ちていた。

この雨天体操場に１組の籠球スタンドがあった。木材で組み立てられ、数人で持運び移動ができた。これは明治村の学生会（中等学校に進学した者の親睦会）が小学校に寄贈したものだと聞いている。

私が小学校６年の４月に、原田貞蔵先生が赴任してこられた。先生はこの３月に山形県師範学校本科１部を卒業され、籠球の大変好きな方であった。

着任されて間もなく、原田先生は次のような掲示を出された。「籠球部を創るので部員になりたい者は申し出なさい」と。すぐに３０名近い者が集まった。私もその中の１人である。４年生、５年生、６年生、高等科の児童の集団である。これで明治小学校の籠球部が誕生した。

間もなくして練習が始まった。練習の内容は、籠球の基本技術が中心である。パス、シュート、ドリブル、フット・ワーク、「１人対１人の攻防」など。毎日が基本の練習である。放課後１時間～１時間半の練習だ。その年の夏休みには合宿練習も行った。吾々の技術はめきめき上達した。練習の場所は、雨天体操場又は外のコートである。素足でやるか、地下タビをはくかであった。

県下大会で優勝

籠球部が創設された昭和５年の夏休みに、１週間の合宿練習が行なわれた。小学校に宿泊しての練習だ。練習は午前と午後の２回。１回の練習時間は２時間程度。夜は１時間半位の勉強会。いわゆる文武両道の合宿練習である。

明治小学校は、旧山形市街から約３里(１２km)離れた場所にある。そこは山形盆地であり、農村地帯の真只中である。山形盆地の夏は暑い。夏は青々とした稲田が続く。外は涼風が吹いているが、トタン屋根の雨天体操場の中はむし暑い。特に午後の練習は暑さとの戦いでもあった。

合宿練習には原田先生の弟さんもコーチとして参加された。弟さん（原田秀雄さん）は、当時旧制山形高等学校の学生で籠球の選手であった。創設当時とあって吾々部員も一生懸命である。何もかも新しいことの練習だ。吾々の技術もめきめき上達し、ゲームもうまくなった。上達のあとが見えるだけ練習も楽しかった。

昭和５年１０月、旧制寒河江中学校（現寒河江高等学校）主催の県下４郡の小学校籠球大会が開催された。明治小学校尋常科チームがその大会に参加した。試合はトントン拍子で勝ち進み決勝戦に進出。対戦相手は出羽小学校チーム。この決勝戦で勝ち、本年４月に創部した吾々明治小学校チームが優勝した。夢のような出来ごとであった。

優勝旗を手にして、明治村に帰った時はすでに日が暮れていた。途中で八幡神社に優勝の喜びを報告した。生涯忘れることのできない感激を味わった。

私が高等科２年の時、旧制山形工業学校主催の「県下学童籠球大会」が開催された。

昭和７年８月のことである。明治小学校から高等科チームが参加した。この大会でも運よく決勝に進出した。対戦相手は鈴川小学校チームである。この決勝戦も勝ち明治小学校チームは全県下で優勝した。

明治小学校籠球部は、昭和７年にも高等科チームの全県下学童大会で優勝した。これは学校にとっても父兄にとっても大きな喜びであり、それは明治小学校全児童の喜びでもあった。

明治小学校では、これまで種目別大会に参加することはなく、今回は籠球というスポーツで、全県下で優勝し、優勝旗を手にしたのである。「明治小学校ここにあり」を示したのである。

小学校時代の遊びと勉強

小学校時代は「よく遊び、よく学べ」であった。勉強は学校で、遊びは学校から帰宅してから、また休日であった。遊びは部落の子供がいっしょになっての遊びである。上級生がリーダーで下級生はリーダーに従って、集団での遊びだ。当時のリーダーは下級生から信頼があった。体力、統率力にすぐれていたように思う。この遊びの中で、日常生活に必要な諸ルールや知恵を体得した。高学年になると農作業の手伝いがあり、遊んでばかりはいられない。農繁期になると学校が休みになり、農作業の手伝いをした。勉強での思い出は、夏休みの「早朝の勉強会」である。明治村灰塚地区の児童が、八幡神社の境内に朝６時頃集合する。神社の広場に「むしろ」を敷き、その上で「夏休みの練習帳」を中心に勉強するのである。解らないところは上級生が教えてくれる。雨の降らない限り、勉強会は夏休み中続けられた。当時はまだ「ラジオ体操」がなかった。この勉強会はまことに楽しいつどいであった。

私が自発的に勉強しようと思ったのは､小学校５年生の半ばを過ぎてからのように思う。或る日、山形市内の本屋に立ち寄った。その時、東京の某出版社が出している「小学校の参考書」が目についた。教科別に出来ていて、全教科を買い求めると相当の金額であった。

内容は、教科の予習、後習（復習)、テストなどの要点を解説してあった。これを父親にねだり買い求めた。これを読んで授業を受けると、授業がよく解かり楽しくもあった。あとで思い出してみると、これは教師用の参考図書であった様だ。

小学校６年を卒業する時、私は次のような賞状をもらった。

① 品行方正学術優等の賞状
② ６カ年間皆出席の賞状
③ 正級長をしたその功績賞状
④ 品行方正学術優等に関する東村山郡教育委員会の賞状と硯箱壱個

私は小学校６年を卒業する時に、担任の先生から中学校への進学を勧められた。当時の明治小学校から中等学校に進学する者は極めて少なかった。特に中学校への進学となるとごくまれであった。私は父親に担任の先生からの話をした。父は即座に「それはだめだ。お前は高等科２年を卒業するとき、山形県師範学校を受験するのだ」と云われた。

そのような事情で高等科２年の時に山形県師範学校本科一部を受験した。その結果は合格であった。

２、山形県師範学校時代のバスケットボール

私は昭和８年４月に山形県師範学校本科一部に入学し、課外活動は籠球部に入部した。

籠球部の練習は、雨天体操場か屋外のコートで行なった。雨天体操場は狭くて天井の梁も低い、床は杉板張りで凹凸があり、ドリブルはまともに出来ない状態であった。天気のよい日は屋外のコートで練習をした。下級生（主として１年生）は、ボール磨きと練習前の屋外コート整備作業があった。練習は１年生も上級生もいっしょである。

私が入学した昭和８年の秋に、山形県師範学校籠球部は、全国中等学校籠球大会（師範学校の部）で優勝した。私たち残留部員と応援団員が山形駅前の広場で優勝チームを迎えた。校歌と応援歌を大声で歌い乍ら優勝を祝福した。そして優勝チームを先頭に、市内の目抜き通りをパレードして学校まで歩いた。

当時の記録は次の通りである。昭和７年は準決勝で京都師範に屈した。昭和８年は１回戦で京都師範を破り、２回戦で札幌師範を破る。更に豊島師範を破り、決勝戦で宮城師範を破り、優勝した。その時の主将は石沢亀太郎である。

籠球部のコーチについて

当時の山形師範籠球部は、東京商科大学籠球部の指導を受けていた。春休み、夏休みの合宿練習には、必ず商大の選手をコーチに招き指導を受けた。

当時の商大は関東大学籠球リーグの１部校で強力なチームであった。私が５年生に時は、杉浦亮先生（主将）が来て下さった。関東大学チームの籠球技術は日本でも最高のレベルにあったと思う。東北の山形で、いろいろな新しいプレーを学ぶことができ、まことに幸せであった。杉浦先生は、技術面の指導は勿論のこと、精神面でもいろいろと指導して下さった。このことは私のバスケットボール生活にとって大きな指針となっている。日常の練習では、特別なコーチの制度はなく、主将を中心に自分たちでスケジュールを決めてやっていた。

全国籠球大会で破れる

私たちの５年間の師範学校の生活目標は、勉学とクラブ活動の両立を図ることだった。私は１年生の時から５年間、学年の級長を務め、学級の世話役をさせられた。そのような事情から、籠球の練習は勿論のこと、勉学に関しても一生懸命やらねばならなかった。しかし、よく考えてみると、私の師範生活の中心は籠球部の生活にあったと云える。

私たちの籠球部の成績は、県内大会や地域大会ではいつも優勝していた。私が５年生の時（昭和１２年）は、全国大会でも優勝候補の一角に挙げられていた。その年の１０月、吾々は上京して全国籠球師範大会に臨んだ。大会が始まり予想に反して２回戦で敗退した。その原因は私自身にあった。

私は、全国大会出場までの練習や、予選会などで過労に陥っていた。体調を崩し、全身の運動機能が極度に低下し、体が動かず、いつものプレーが出来ないのだ。体調の自己管理が出来ず、みじめな失敗をしたのである。籠球部員はじめ、籠球関係者、学校には誠に申し訳ない思いでいっぱいであった。それ以来、私は大きな責任を感じ、この失敗をどのようにして償えばよいかを毎日考えさせられた。思い悩んだあげく、次の結論に達した。

「上級学校に進学して、更にバスケットボールをやり、自分を鍛え、後輩諸君のバスケットボールを指導し立派な選手を育ててやろう」ということである。このことを籠球部長先生にも相談して同意を得た。私自身以前から上級学校に進学の夢を持っていたことも手伝った。

以上のことから、東京高師体育科を受験することを決意した。その後、短い期間ではあるが受験勉強にとりかかった。受験科目は英語、数学、国語、体育実技であった。受験の結果は合格であった。

３、東京高師時代とバスケットボール

前述のように、昭和１３年２月に高師体育科に合格した。普通であれば、同年４月に東京高師に入学すべきであった。当時の師範学校卒業生は短期現役兵として兵役に服する義務があった。卒業した年の４月１日から５ヵ月間軍隊教育を受け、除隊後は「国民軍」に編入される。そして再び軍隊に召集されることはなく、国民教育に専念する義務が課せられていたのである。そこで私は東京高等師範学校に「短期現役兵に服するため、１年間の

入学延期願い」を提出した。それがすぐに許可された。そこで、私は昭和１３年４月１日、山形歩兵３２聯隊留守部隊に入営した。入営期間は５ヵ月である。当時３２聯隊の主力部隊は、当時の満州に出兵していたので召集兵で編成されていた。

吾々山形師範卒生（８０名）は短期現役兵として訓練を受けた。入隊してすぐは二等兵である。６月１日に陸軍歩兵一等兵拝命。８月１日に上等兵に昇進。８月３１日除隊であるが、その日の朝に陸軍歩兵伍長に任ぜられた。伍長の肩章を付けたのはこの日だけだ。よって吾々のことを「衛門伍長」と呼んでいた。私は短期現役兵の期間中、成績が優秀であるとの理由で「国民軍士官適任証」を授与された。短期現役兵除隊後、山形県の指示により同年９月１日より昭和１４年３月３１日までの７ヵ月間、山形県西置賜郡高畠町にある高畠尋常高等小学校に勤務した。

昭和１４年４月１日東京高師体育科に入学し、東京文理大（東京高師を含む）籠球部に入部した。東京高師では１年生（文科、理科、体育科の学生全員）は１年間桐花寮で生活することになっていた。寮の生活は運動部単位の部屋割で、籠球部は２室あった。私は５月末になって体調を崩した。早速校医の診察を受けた。「過労から来る脇膜炎の初期だ」といわれた。そして明日から籠球の練習は休むこと。学校の授業はいつもの通り出席してよいとのことであった。

授業は７月半ばに終了し夏休みになった。すぐに帰省し、規則正しい生活を送り休養に努めた。８月中頃から体調がよくなった。体力の回復をはかるため、毎日明治小学校に出かけ、約１時間軽いトレーニングを実施した。９月になって２学期が始まったので上京した。校医の診察を受けたところ「よくなった。普通に授業を受け、籠球の練習をしてもよい」と指示を受けた。再び籠球の練習に励んだ。１０月から関東六大学１部リーグ戦が始まり、スタートメンバーで出場できた。その年のリーグ戦で、早大チームと対戦した。その時のベルリン・オリンピックの日本代表選手の横山選手をガードせよと指示を受けた。試合中は無我夢中であった。試合が終って笹本コーチから「井上は横山をよくガードした」と云われて私もホットしたことが思い出される。

昭和１５年１１月、私が高師２年生のときである。皇紀二千六百年奉祝の第１１回明治神宮国民体育大会が開催された。籠球の部で。大学高等専門学校選抜大会が行なわれた。場所は明治神宮水泳場に設けられた板張りの特設コートであった。私は東京文理大科大学チームのガードとして出場した。この大会で東京文理大科大学チームは優勝した。当時の我が国の４強と目されていたのは、文理大、立大、京大、延禧専門であった。このような状況の中で、私は昭和１５年度日本バスケットボール協会の優良選手として表彰された。この年の優秀選手は文理大からは池上、辻村、吉井の３選手であった。私は同１６年には同協会から優秀選手として表彰を受けた。

私は昭和１７年度の文理大籠球部の主将に選ばれた。吾々の時代は第二次世界大戦がいよいよ激しさを増す時代であった。昭和１６年度の卒業生は３ヵ月、吾々昭和１７年度卒業生は６ヵ月の繰上げ卒業となり同１７年９月に卒業したのである。当時の文理大チームは監督もいたが、実質的には、主将、マネジャーを中心に自分たちで練習計画を立案し、自分たちで運営するのが慣わしであった。それだけに主将とマネジャーの責任は重大であり苦労も多かった。しかし、この苦労が楽しみでもあった。

昭和１７年になって、戦時体制が更に強化された。国民徴兵令は国民を強制的に軍需関係産業に配置した。これを「白紙召集」といった。軍隊への召集は「赤紙召集」である。学徒の勤労動員の強化に続いて、学徒の卒業をくり上げ、学生を軍隊に送り出した。昭和１８年１２月に第１回の学徒出陣が実行され、学生は戦場に赴いたのである。私たちの卒

業は前述のように半年くり上げとなり、１７年９月の卒業となった。大学の籠球リーグ戦も、秋季から春季にくり上げられた。春季リーグ戦は、５～６月の間に５週間で強行された。その結果は、①立大②東大③文理大④早大⑤慶大⑥商大の順であった。このリーグ戦の最終日、文理大対立大戦は一ツ橋の国民体育館創立以来の大観衆に囲まれて盛況であったと当時の新聞は報じている。このリーグ戦限りで関東大学籠球リーグは、新しく発足した大日本学徒振興会に移ることになった。

第１２回東京オリンピック大会（昭和１４年）は戦争のため返上され幻と消えた。それに代るものとして、東亜大会が計画され、それが昭和１５年に東京で開催された。続いて昭和１７年７～８月の間に満州国建国十周年記念の東亜大会が当時の満州(新京)で行なわれた。私は籠球の日本代表に選ばれた。籠球の日本チームは次の通りである。

総監督	牧山 圭秀
監督	竹崎 道雄
主将	鹿子木 健日子
選手	張 利鎮　金 程信　白川 得俊　池上 喜八郎　塩田 秀夫　杉野 伊平
	井上 一男　八谷 貢　李 重潤　久保 光雄　川上 佐武郎

４、宮城県師範学校時代

昭和１７年９月末に東京高師を卒業。直ちに「宮城県に奉職すべし」と文部省から指示を受けた。続いて宮城県から「宮城県師範学校教諭兼訓導に任ず」の辞令を手にした。

私は師範学校の卒業生であるため、小学校に勤める義務があった。そのため教諭兼訓導の肩書で、実際に附属小学校の授業も週に２時間担当した。

昭和１６年４月、小学校は国民学校となり、中学校では同１８年１月に学校令が改正され、体操科は体錬科となった。昭和１８年３月に師範学校令が改正され、官立学校となり、予科２年、本科３年の専門学校に昇格した。

太平洋戦争が激しさを増す中で、教育は戦争目的の達成に目標がおかれ、国防能力の向上、献身奉公の実践力の増強が求められ、鍛錬主義が強調された。授業の内容は、外来スポーツは制限され、外来スポーツの名称は日本語に改められるなど、異常な状態であった。

そして徒手体操を中心とした「学徒鍛錬体操」、グライダー訓練、戦場運動、銃剣術、射撃などの戦技訓練が行なわれた。昭和１８年９月に学生生徒の体育・スポーツ大会は中止された。この頃から学徒勤労動員が強調された。昭和１９年１月には「勤労即教育」の方針が打出され、毎日の学生生活は勤労であった。私は昭和１９年６月、後藤修子と結婚した。当時宮城県の体育運動主事であった長嶋操先生のすすめによるものである。結婚して、戦時中仙台市でささやかな生活を送った。

前述のように、昭和１９年４月から師範学校は専門学校に昇格した。そして男子師範と女子師範が合併し宮城県師範学校となり、従来の男子師範は男子部となった。当時の男子部長は中村友平先生、生徒部長は工藤泰正先生であった。両先生とも東京高師、東京文理大のご出身である。両先生とも私に東京文理大に進学することをすすめられた。その理由は、師範学校は専門学校に昇格したのだから、教員は大学で勉強するのがよいとのことであった。しばらくして、東京高師時代の恩師今村嘉雄先生からお便りが来た。文理科大学の入学試験は推薦制度になった。入学する意思がある時は連絡するようにとのことであった。東京文理大に入学の件について、家内に相談したところ賛成してくれた。受験の結果昭和２０年４月１日東京文理大に入学することができた。

５、東京文理科大学時代

昭和２０年４月４日、東京文理科大学の入学式が行なわれた。大学では授業が全くない。同年３月に「決戦教育措置要綱」が決定され、中等学校以上の学校を１年間常時動員できる体制ができたからである。５月の始め、吾々文理大の文科系の学生約３０名は、北海道上川町に勤労動員で出発した。団長は石山修平教授である。上川町は北海道の屋根といわれる大雪山の麓にある農村地帯である。学生２人が１組になり、農家に宿泊し、食糧増産の農作業に当ったのである。

８月１５日は上川町でお盆休みであった。私たちは旭川の街に出かけた。今日は重大な放送があると聞かされていた。いわゆる「玉音放送」である。内容はよく聞きとれなかった。しかし戦争に負けて降伏したことが分った。不安な気持ちですぐ上川町に帰った。

９月にはいって、青函連絡船が用意され次第、学生は東京に帰るとの報せがはいった。９月下旬に吾々は上川町を離れ、それぞれ郷里に引き上げた。山形の実家に帰ると、修子と長男紘一が山形に疎開しており元気であった。１０月になって、私達家族３人は東京都世田谷松原町の修子の実家に戻り、世話になることになった。

６、バスケットボールの練習開始

昭和２０年１２月に、東京文理科大学の校舎に足を運んだ。池袋、大塚の辺りは、焼野が原である。大学の敷地にはいると、鉄筋コンクリート造りの建物(西館、図書館、附属小学校)だけが残っている。授業は当分出来そうもない。しかし、学生はあちこちから集まってくる。高師のバスケット仲間がお互に顔を合わせ、無事であったことを喜び合う。

かくするうちに、バスケットボールの練習を始めようと云う。大学の体育館は焼けてない。附属小学校の小さい体育館を借りて、練習を始めることとした。私も若い諸君に誘われるままに、練習に参加した。ボール、シューズ、その他用具を集めるのが大変である。これまでは文理大の学生になると、バスケットの現役から引退するのがならわしであった。しかし、私は後輩から誘われるままに、現役としてバスケットボールを続けることにした。

昭和２１年４月から授業が始まった。各大学間の連絡もとれるようになった。その頃関口君が中心で、野中、仁尾、青井、茂木(亀里)、加藤君等が集まった。そして文理大と東京大学がリーダーシップをとり、戦後の関東大学バスケットボール連盟を復活させた。私が最年長の学生であるとの理由で関東大学学生バスケットボール連盟の委員長にまつり上げられた。

同２１年５月、終戦後最初の関東大学バスケットボール・リーグ戦を開催した。どの大学も部員数が少ないのが苦労の種である。同２１年は春と秋の２回リーグ戦を行なったが、春秋ともに東京大学が優勝で、２位は東京文理大であった。東京大学、東京文理科大学とも、戦前にバスケットをやった学生が残留しており、それが戦力となって、良い成績をあげたようである。同２２年度の春秋２回のリーグ戦が行なわれた。２回とも東京文理科大学が優勝した。

学生時代の私は、バスケットに明け暮れた。ある時、大学の指導教官である石山修平教授は「井上君はバスケットに熱中している。大学の勉強の方はまあまあだが、特技があるからそれでよいだろう」と冗談まじりに話されたことがある。

終戦直後は食糧事情がきわめて悪い時期である。芋を食べ乍ら練習をした。この食糧の不足している時に、スポーツをやる馬鹿がいると云われながら練習をした。好きだからこそ、できたことである。

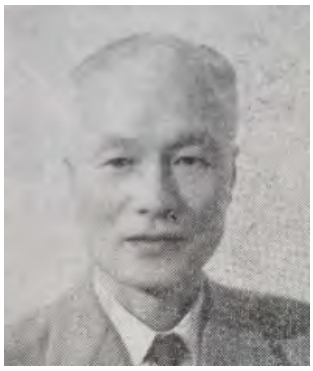
[おわり]

先人の軌跡　植田義巳

1964 オリンピック東京大会バスケットボール競技の運営

［普及部］

第１８回オリンピック東京大会のバスケットボール競技は、昭和３９年(1964)１０月１１日から２３日まで１１日間（休息日・国際会議日は１０月１５日、１９日の２日間）にわたり、国立屋内総合競技場別館（収容人数 4,000 名）（現在の代々木第二体育館）と練習会場６会場６コートで開催された。参加国は１８か国、出場参加選手数は１９０名、観客動員数は 86,438 名（内、団体入場者 13,367 名）であり、競技は動員された役員、係員８１３名によって運営された。入場者数は、会期も長期であったこと、昼夜入れ替え２部制であったことから、全競技中、開閉会式を除き、トップの国立競技場から、水泳競技の国立屋内総合競技場本館（現在の代々木第一体育館)、サッカーの駒沢競技場、ボクシングの後楽園アイスパレスに続く第５位の入場者数であった。　（国立屋内総合競技場は、当時、国立競技場代々木会場又は国立代々木競技場と呼ばれていた。）



植田義巳は、ローマオリンピック視察員、東京オリンピック バスケットボール競技運営副運営部長･国際連盟理事を務めており、昭和３５年（1960）に日本協会からローマオリンピックの視察員として派遣され､｢東京大会の為の調査報告書」と題し、膨大な報告書を書いている（1961 バスケットボール No.４７全１７ページ)。

その中で結論として､｢東京大会の成否の鍵は、テーブル・オフィシャルの訓練如何にある」と書いた。そして､｢大会を終わって私の報告が間違っていなかったことを確認した」と述べている。国際連盟事務総長Ｒ.ウィリアム.ジョーンズ氏が、競技終了の翌日、テーブル・オフィシャル全員を集めて感謝の言葉を述べ、その証としてＦＩＢＡのバッヂを全員に贈呈している。

オリンピックの準備には、２つの段階があった。一つは、横浜予選であり、他の一つは東京大会である。そして植田義巳が本当に苦労したのは、実は横浜予選であった。過去のオリンピックでは、予選は常にその国の責任において行われた。しかし東京では、オリンピック憲章を楯に頭から拒否された。多くの人は、横浜予選は、東京大会の「おさらい」などと考えていた。植田義巳もついそんな気分になりがちであった。しかし、実際に参加する国にとっては東京大会に参加できるか否か重要な鍵である。こんなことではいけないと自分を叱って本気で取り組んだ。横浜大会そのものが大成功裡に終わったことが東京大会成功の鍵になったのである。北朝鮮問題、インドネシアの棄権、フィリッピンの抗議等幾多の難問も起きたが、その都度、ＦＩＢＡと協会の努力で大過なく終了出来たのはご同慶の至りであった。その推移如何に依っては国際的な問題に巻き込まれる懼れもあり、一時はどうなることかと、眠れない時もあったが、とにかくホットした気持であった。何時の日か楽屋の裏話として発表できると思うが今はその時期ではないと、当時、植田義巳は綴っている。

これに比較すれば東京大会は楽なものであった。勿論、時間的には早朝から深夜まで長かったし、役員諸君の勤務や努力は大変なことではあったが、横浜大会では下で働く役員は殆ど未知の人ばかり、おまけに横浜市の役人と共同で働くことを考えれば、東京は手慣れた内輪の人ばかり、お互いに気持ちよく励ましあって行動できる。この功まざる団結の力が東京大会を成功させた。

日本協会は、東京大会に未曾有の団結力を発揮した。皆が私事を忘れ一つの大きな目的に向かって前進した。私達はこの気持ちを忘れずに手を携えて日本のバスケットボールの発展のために進まねばならない（1964「オリンピックを終わって」植田義巳バスケットボールNo.６５）との決意であった。

１） 東京大会役員の団結力・組織力

東京大会開催決定後、日本協会は、植田義巳理事を昭和３５年（1960）のローマオリンピックに視察員として派遣。「東京大会の為の調査報告書」に基づいて、昭和３６年（1961）には、日本協会の強化・運営体制が整い、４月に下記の新理事が決定、昭和３９年（1964）の東京オリンピックまで４年間を担当することになった。

・強化　日本選手団総監督　牧山 圭秀、　チーム監督　　吉井 四郎
・役員
会長　　河田 重　　副会長　浅野 延秋、　三ッ本 常彦、　野村 瞳
理事長　大庭 哲夫
・東京オリンピック・バスケットボール競技運営副本部長
国際アマチュア・バスケットボール連盟理事　　植田 義巳
・委員会体制と各委員長

総務委員会	鈴木 正三、	競技委員会	井上 一男
審判委員会	古川 幸慶、	報道編集委員会	桜井 美知夫
会場管理委員会	大室 富弥、	渉外委員会	伊藤 一郎
施設委員会	丸山 正敬、	記録委員会	富士 秀雄

各委員会に副委員長 ２名
役員、補助役員など動員された役員、係員　延べ８１３名

植田義巳は、大庭理事長が「オリンピックに対する準備はお前に任す。思いきってやれ」と励まし続けてくれたので、非常にやり易くなった。重要なことは理事長に連絡し、その都度、理事会に諮った。理事の諸君もよく理解してくれて、遂にこの世紀の大事業を成し遂げた。大会終了時、植田義巳は、今の私は総力を結集して共に働いた理事諸君に感謝の気持ちで一杯であったと、語っている。

組織委員会の佐藤鉄太郎氏は、組織委員会とバスケットボール協会との連絡及び運営に関する役割を担っていたが、その手記で「ガミガミ云うが仕事の速い植田さん」「苦労人の鈴木先生」「予算関係で口論した山口さん」「通訳で頭の痛かった伊藤さん」「会場管理で消防庁に泣かされた大室さん」「精力的な古川ドクター」「事務局で頑張った職員の方々」「幾多の困難や中傷にもめげず、卓越した企画性と実行力を発揮して別冊プログラムを作り上げた編集委員会」などと各役員について語っている。

バスケットボール競技の役員は全てバスケットボール経験者で構成されており、その団結力と組織力によって東京大会の運営は成功に導かれた。

２）「日本で初めてのバスケットボール専用コート」の建設

この大会で、日本バスケット界多年の念願であったバスケットボール専用の体育館（現在の代々木第二体育館）が新築された。

植田義巳の調査報告書の中で体育館の収容人員は 6,000 名～8,000 名が望ましいと報告されているが、結果的には、4,000 名規模の体育館となった。

当時の代々木第二体育館コート

体育館は、1,700 坪、床は厚さ６分の桜材、コートは色分けし、表面塗装はシールオーサンを使用、鏡のような光沢をつけ且つ絶対滑らないように施工された。照明は床面基準照度 800 ルックス、電光掲示板は精工舎製で試合時間の経過を毎秒で観客に分かるように表示されている。バックボードはガラスで透明のアメリカ・ポーター社製の２組が用意された。個別には、色々問題点もあったが、照明、床、電光掲示板、コートの色分けなど、当時の世界の最新のバスケットボールコートであった。

当時の日本協会の組織存在の高さと役員の尽力でバスケットボール専用コート建設の夢が実現した。

３）ガネホ「ＧＡＮＥＦＯ」とアジア主義

植田義巳が、「何時か楽屋の裏話として発表できると思うが今その時期ではない」と語っているが何のことだろうか、また、鈴木総務委員長（当時）が東京オリンピックの運営の苦労話として「北朝鮮チームの帰国」について語ったこともある。

オリンピック開幕以前に、インドネシアと北朝鮮の参加を巡って混乱があった。発端は、昭和３７年（1962）にインドネシアのジャカルタで開催された第４回アジア競技大会であった。この大会を前にインドネシア政府がイスラエルと中華民国（台湾）の選手団に対して身分証明書（ＩＤカード）の発行を拒否。結局、両国選手団が参加できなくなった。

第２次世界大戦後に独立したインドネシアでは、独立運動の指導者スカルノが大統領を務めていた、スカルノ大統領は、昭和３０年（1955）にジャワ島中部のバンドゥンでアジア・アフリカ会議を開くなど第３世界のリーダーを自任する政治家であり、アラブ諸国や中華人民共和国との関係が深く、そのために対立関係にあるイスラエル、台湾の参加を拒否したのだ。

この問題が北朝鮮チームの帰国、インドネシアチームによる試合のボイコットなどの事件として横浜の予選大会で顕在化した。ＦＩＢＡは、警察ではない。規約の義務、およびＦＩＢＡの公式試合に対しては、遵法を求めるが個々の国の内政的な問題にはタッチしないと言明している。その結果、国際的な外交問題を日本協会独自で判断するに至った。この事態についての詳細は、今に至っては明確に分ることではないが、当時の日本協会の役員は何とかこの難局を乗り越えて横浜の予選大会を成功に導いた。

横浜大会会場風景
第 11 回オリンピック大会報告書
大日本バスケットボール協会　提供

インドネシアチーム棄権による空き会場の穴埋め行事の一端が、都﨑氏の寄稿による本誌「会員だより」の「第１８回オリンピック東京大会の想い出」にうかがえる。

当時の国際バスケットボール連盟（ＦＩＢＡ）事務総長　レナード・ウイリアム・ジョーンズは、この東京大会終了後に、大会の運営について次のような賛辞の言葉を述べている。

「私は、過去６回オリンピック大会を経験してきましたが、今迄の内、最高のものでありました。その優秀さは、立派な態度により組織し競技をまれにみる成功に導いた責任ある献身的な努力に対し、感謝の意を表します。」（1964．10.22）（バスケットボール No.６４）と。

結びに

第１８回オリンピック東京大会（1964）は、当時のバスケットボール役員の「組織力と団結力」をもって運営され、成功裡に終わった。また地方役員に東京大会観戦の機会を設けたこともあり、全国のバスケット関係者にも好評であった。この 1964 年東京大会の関係者、バスケットボールオリンピアンを、次回 2020 年の東京大会に招待するなどの機会が設けられれば、前回同様の歴史に残る素晴らしい大会になると考える。

会員だより

ベルリン・オリンピックの遺構を訪ねて

バスケットボールが初めて公式種目になった大会

上谷　富彦

2018 年１２月２６日、ベルリン市シャルロッテンブルグ地区にある美しいスタジアムに足を運んだ。この会場を中心にして 1936 年８月１日から第１１回オリンピック・ベルリン大会が開催された。1932 年、ドイツでは総選挙の結果、ナチスが第１党となり、翌年にはヒトラーが首相に就任、この大会の成功に向かい総力を挙げて取り組んだ。近代オリンピックでバスケットボール競技が採用され、聖火リレーが実施されたのもこの大会からである。

オリンピックでのバスケットボール競技は前大会のロス・アンゼルスで採用が検討されたが見送られた。この経緯については及川先生（現職：東京女子体育大学体育学部准教授）の研究（注１）に詳しく記録されている。この年、日本では 2.26 事件が発生して東京に戒厳令がしかれるなど騒然とし、軍部の力が一段と強くなっていた。

バスケットボール競技は、２３チームが参加し、ライヒスポット・フェルドの屋外にアンツーカーのコートを作って８月７日から開始された。開会式ではバスケットボールの考案者であるネイスミス博士が挨拶をしている。

日本は、第一戦で中国に３５対１９で快勝し、幸先のよいスタート切った。９日にはポーランドと対戦して４３対３１で勝利し、予選を突破した。当時のルールはゴールが決まると常にセンタージャンプで再開するので、長身のセンターがいる日本は有利に試合を展開することができたのだ。

屋外コートでのバスケットボール競技
販売写真集「OLYMPIA IN BERLIN」提供

日本は、８月１１日に強敵メキシコと対戦する。これに勝てばメダル獲得の夢がかなう大切な試合であった。協会の報告書によると序盤は日本のペースで進み７対０と一方的にリードする。メキシコはここでゾーン・ディフェンスに切り替えた。日本は、マンツーマン・ディフェンスを主体に練習をしてきたため攻めあぐみ、外からシュートを打つが決まらずに逆転され、前半を８対１２で終了。後半、積極的に攻めたが１４対１６と追いつけず、ついにトータル６点差で敗退した。

結果は優勝アメリカ、２位カナダ、３位メキシコであり、予選で日本に敗れたポーランドは敗者復活戦から勝ち上がり４位になっている。後日、選手の反省会では誠に残念であったと記されている。

このスタジアムは、2006 年のサッカーワールドカップ・ドイツ大会開催時に改修され、屋根が造られて７万人を収容出来るようになった。現在はブンデスリーガーのベルダ・ベルリンの本拠地として、シーズン中、土日の午後にはホームゲームが行われている。2007 年には世界陸上が開催され、このトラックでウサイン・ボルトが 100m9 秒 58 の世界記録を出している。スタジアムの西側に観客席がぽっかり抜けているのは聖火台が置かれていた跡である。そこに３６年のオリンピック大会の金メダリストの名前が刻まれたプレートがかかっている。日本人の名前を探すと、マラソンの孫、三段跳びの田島、そして水泳女子 200m平泳ぎの前畑の名を発見した。前畑が泳いだプールはスタジアムの隣に今も残っており、夏には多くの市民が水泳を楽しんでいると言う。

球技の部門ではサッカー（イタリア)、ハンドボール(ドイツ)、バスケットボール(アメリカ)、ホッケー(インド)、水球(アルゼンチン)の名前を見ることが出来た。

今年のＮＨＫ大河ドラマ「いだてん」では日本人として初めてオリンピックに参加した金栗四三が、１５日かけてシベリア鉄道でストックホルムへ向かっている。これに同行した大森兵蔵こそが、アメリカで体育を学び日本にバスケットボールを紹介した立役者である。ベルリンに向かった日本選手団も現地へと同じルートを使用している。

シベリアの一駅で、ベルリンへ向かう選手が練習
第 11 回オリンピック大会報告書
大日本バスケットボール協会　提供

スポーツを通じ、世界中の若者が集まるオリンピックが、来年東京で開催される。この記念すべき大会に、男女そろってバスケットボール日本代表が出場できるとは何とも喜ばしい。更に新種目として 3×3 バスケットが加わることもバスケット関係者としては楽しみである。

前回の東京オリンピックで男子日本チームのヘッドコーチをされた吉井四朗さんの名言がある。「バスケットボールには神様が居る。努力した者は必ず報いられる」と。この言葉を信じ、日本一丸となって応援したい。

（注１）　及川佑介．オリンピック・ベルリン大会（1936 年）における日本バスケットボールに関する史的考察『運動とスポーツの科学(日本運動・スポーツ科学学会)』vol.14，no.1，pp45-54．2008

［副理事長］

会員だより

1964 オリンピック東京大会の想い出

女子バスケットボールをＰＲ

都﨑　修男

1964 オリンピック東京大会において、吉井四郎監督率いる男子バスケットボールチームの活躍は連日新聞、ＴＶにも報道され関心を集めていた。しかし、女子バスケの記事はどこにも見つからない。それも当然、女子はこの時まだオリンピックの種目には取り上げられていなかったのだ。

当時の女子バスケ関係者は何とかオリンピックに女子チームを参加させて欲しいと願い、ＰＲの機会を狙っていたところ、機会は思わぬところからやってきた。

横浜で行われていた予選会には多くの東南アジアの国が参加していたが、漸く戦時の荒廃から立ち直り発展途上であったこれらの国々はお互いの利害が交錯し、国どうしの激しい争いがこの大会にも色濃く反映されていた。そんな中、インドネシアが棄権をしそうだというニュースが大会本部に入り、その時間に女子バスケの試合を入れてＰＲしようということになったようである。

東芝女子チームの練習途中、突然バスケットボール協会から電話が入り、明日デモンストレーションゲームをするから横浜で待機してほしいということだった。

指定された体育館で、相手となる日本興業銀行（現みずほ銀行）チームとともに待機していると、間もなく予選会場に呼ばれた。予想通りインドネシアは会場に現れず、試合不成立の笛とともに我々は会場に入場した。入ると万国旗が立ち並び、色とりどりの衣服の観衆や予選会にも関わらず試合の行方を心配したマスコミのカメラの放列にまず圧倒された。ＩＯＣやＦＩＢＡのメンバーも多数来られており、国際試合の雰囲気はひしひしと伝わってきた。

そして、我々以上に驚いたのは観衆だろう。インドネシアとアジアの一部の国との関係悪化は一般にも伝えられており、もし試合があれば大荒れになるおそれもあると思っていたところに、ファイトファイトと言いながら可愛い女の子が入ってきてぐるぐる回り始めたので一瞬会場全体があっけにとられ、次に何が始まるのだろうという好奇の気持ちが会場に広がった。

この時代、女子バスケは、日本では女子の実業団リーグも盛んで広く浸透していたが、世界的にはまだ普及しておらず、おそらくＩＯＣのメンバーでも見たことのない人も多かったのではなかろうか。

この時の東芝チームのプレーヤーは、関東実業団リーグ一部の他チームのプレーヤーに比べると平均身長が５センチくらい低く、ゴール下の争いに泣かされていた。この年の初頭から桜井監督とともに私はコーチとして就任していたが、その打開策として春のリーグ

戦終了後にオールコートのゾーンプレスディフェンスを採用することを決め、この試合が最初の試合だった。まだシステムとして確立していない中で「とにかく厳しく当たれ」と選手を送りだし、試合が始まると選手もそれにこたえてオールコートで激しいディフェンスを展開した。興銀も普段は激しいプレーをするチームではなかったが、国際試合の雰囲気か、我々に誘発されたのか、ルーズボールに頭から飛び込んでボールの奪い合いが始まるなど、試合はエキサイトしていった。

こうなれば観衆がのるのは早い。ボールを奪って速攻を仕掛ければ、「ゴーゴー」をはじめ各国語の掛け声や口笛で選手を鼓舞し、得点すれば椅子の上に立ち上がって手を振るといった当時の日本では見られない光景が会場いっぱいに広がった。試合が終わり万雷の拍手で送りだされたとき、やっと女子バスケも認められたなという思いが、胸にこみあげてきた。

後日、大学の先輩である植田さん（＊）に会ったら、普段は口の悪いことで有名な人が、べらんめー口調ながら「お前、あの試合よかったぞ」と言ってくれた。
この試合は女子バスケ関係者の願いと試合の穴埋めをうまく結びつけた植田さんの施策だったのだろう。

その後、オリンピック本大会開催中に行われたＦＩＢＡの世界会議で、女子委員会は「ＩＯＣは 1965 年１０月にマドリードでおこなう会議で女子チームの試合参加について決定するということと、女子の模範試合を行ってＩＯＣメンバーにＰＲする」という決定をしている。

このように多くの方のご努力にもかかわらず、女子バスケが正式種目として取り上げられたのは東京大会から１２年後のモントリオール大会からである。その時には、我々の上記試合はすでに忘れられた存在になっていたようであるが、最近の国際大会における女子の活況を見聞する都度、長い私のバスケットボールライフの中でも少しはバスケットボールの発展に寄与できた試合だったかなと懐かしく思い出している。

［監事・元東芝女子バスケットボール部コーチ］

（＊）本誌、普及部寄稿の「先人の軌跡　植田義巳」参照

会員だより

リングに向かって“飛べ”10 年後の子供たち

その４：川口市立東中学校バスケット部

鈴木　承二

４月２６日、埼玉県川口市立東中学校バスケット部顧問、鈴木　怜先生を訪問した。

この地域は、埼玉県東南地区で東京足立区に隣接していて、県内でもバスケットボール競技のレベルが高い。

本誌７９号で紹介した戸田市美笹中学校と笹目中学校などの強豪校がある地域でもある。

鈴木 怜 先生

＊バスケット歴：

プレイヤーとして、

中学１年からバスケットを始める、

専修大学付属高校、専修大学バスケット部、現在はクラブチームでの活動

バスケット部顧問として、

７年目、前任校で埼玉県内大会出場、

昨年度、東中学校で川口大会ベスト４

＊本年度チーム目標

川口市中学校総合大会ベスト８、新人戦ベスト４

＊チーム方針

“学校生活と部活動は繋がっている”

・誰からも愛されるチームに“心・技・体の三位一体

・学校生活（勉学や普段の生活）を一生懸命に頑張れる生徒になろう

・挨拶、返事、行動、整理整頓、どれも他の生徒の模範になろう

・集団生活を通して、協調や責任感を養おう

・ＤＦを一生懸命に頑張れる選手になろう

・手を抜かないで一生懸命に走れる選手になろう

・人一倍、声を出して練習できる選手になろう

バスケットボール**部員**

＊活動時間・・平日　朝練習～月・水・木、　　放課後・・月～金迄の連日

休日　３時間程度、（半日、終日も有り）練習試合、交流会、等

＊休養日、平日週一回、休日週１回程度の休養日（大会前は除く）

＊定期試験１週間前は、部活動停止期間

［理事］

会員だより

鈴木 怜 先生 のお話

川口東中学校に赴任して２年目になります。前任校では男子バスケット部の顧問をしており、女子の指導は初めてでした。本校は過去に県大会に出場するチームでしたが、近年は市内予選敗退が続いております。川口市内はバスケットのレベルが高く、学校数も多く勝ち上がるにはとてもたいへんです。

私が赴任してまず行ったことは「学校生活の改善」からでした。指導の方針として「誰からも応援されるチームを作る」ということを念頭に、クラスでの活動が試合に繋がり、頑張っている人は応援されることを教えていきました。授業態度、委員会活動など、普段の生活から変えていくように指導しました。又、部活では「コミュニケーション」の大切さを教えています。

バスケットは展開の早いスポーツです。目に見えないところがたくさんあり、必要な声を出すことで、目で見えない部分を補うことにつながります。当たり前のことが当たり前にできるように、バスケットにつながる部分を細かく指導しています。足の出し方、ボールの位置、目線、どれも細かく教えることで選手たちに少しずつ変化が見えてきています。

コート　練習風景

＊練習中は・・・

・コミュニケーションを大切にする
・正しい姿勢「ヘッドアップ」「パワーポジション」を身に付ける
・視野を広げる、中心視野➔周辺視野
・声を出すこと➔本数を数えることも大事だが、ゲームで必要な声を出せるようにする
・足腰を鍛えることを嫌がらない➔坂道ダッシュ、外周は当たり前・素早く行動する
　A　練習の時間は限られている、そのために練習メニューの間は常に走る
　B　準備、片付などは、全力行う（モップの持つ位置等）
・試合観戦の際には、シュートを見続けるのではなく、コート内のプレイヤーを見る
・オールラウンダーになること➔どのポジションもできるようにする

＊自宅での自主練習・・・

・完全休養ではなく、ジョギング等で体を動かすこと、身体で疲れている部分は使わずに他の部分を鍛えるチャンスである
・ボールには、必ず１日１回以上、手を触れる
・体幹トレーニングは２日に１回程度➔腕・腹・背など各３０秒
・浴槽の中で手首などのストレッチ、風呂上りにもストレッチをし、怪我がしにくい体をつくる

Ｂリーグ 2018～19 シーズン結果

［編集部］

2018-19 シーズン リーグ戦最終順位

リーグ戦全日程が終了し、Ｂ．ＬＥＡＧＵＥ 2018-19 シーズンにおけるリーグ戦最終順位が確定した。

Ｂ１ リーグ戦最終順位

東地区

順位	チーム名	勝利数	敗戦数	勝率	ゲーム差	得点	失点	得失点差
1	千葉ジェッツ	52	8	.867	-	5157	4282	875
2	栃木ブレックス	49	11	.817	3	4873	4254	619
3	アルバルク東京	44	16	.733	5	4692	4180	512
4	サンロッカーズ渋谷	27	33	.450	17	4516	4674	-158
5	秋田ノーザンハピネッツ	17	43	.283	10	4279	4691	-412
6	レバンガ北海道	10	50	.167	7	4266	4930	-664

中地区

順位	チーム名	勝利数	敗戦数	勝率	ゲーム差	得点	失点	得失点差
1	新潟アルビレックス	45	15	.750	-	4811	4400	411
2	川崎ブレイブサンダース	40	20	.667	5	4805	4555	250
3	富山グラウジーズ	32	28	.533	8	5022	4909	113
4	シーホース三河	31	29	.517	1	4742	4693	49
5	三遠ネオフェニックス	22	38	.367	9	4420	4705	-285
6	横浜ビー・コルセアーズ	14	46	.233	8	4499	5054	-555

西地区

順位	チーム名	勝利数	敗戦数	勝率	ゲーム差	得点	失点	得失点差
1	琉球ゴールデンキングス	40	20	.667	-	4486	4125	361
2	名古屋ダイヤモンドドルフィンズ	33	27	.550	7	4871	4819	52
3	京都ハンナリーズ	31	29	.517	2	4642	4810	-168
4	大阪エベッサ	23	37	.383	8	4117	4383	-266
5	滋賀レイクスターズ	18	42	.300	5	4375	4680	-305
6	ライジングゼファー福岡	7	48	.117	8.5	4371	4800	-429

以上の結果、下記８クラブが「B.LEAGUE CHAMPIONSHIP 2018-19」に出場することとなった。

【東地区１位】千葉ジェッツ　　【東地区２位】栃木ブレックス
【中地区１位】新潟アルビレックス　　【中地区２位】川崎ブレイブサンダース
【西地区１位】琉球ゴールデンキングス　　【西地区２位】名古屋ダイヤモンドドルフィンズ
【ワイルドカード】アルバルク東京　・富山グラウジーズ

Ｂ２ リーグ戦最終順位

東地区

順位	チーム名	勝利数	敗戦数	勝率	ゲーム差	得点	失点	得失点差
1	群馬クレインサンダーズ	43	17	.717	-	5034	4434	600
2	仙台８９ＥＲＳ	40	20	.667	3	4687	4322	365
3	茨城ロボッツ	35	25	.583	5	4816	4596	220
4	福島ファイヤーボンズ	27	33	.450	8	4788	4855	-67
5	山形ワイヴァンズ	22	38	.367	5	4568	4837	-269
6	青森ワッツ	15	45	.250	7	4473	5040	-567

中地区

順位	チーム名	勝利数	敗戦数	勝率	ゲーム差	得点	失点	得失点差
1	信州ブレイブウォリアーズ	48	12	.800	-	4805	4181	624
2	Ｆイーグルス名古屋	41	19	.683	7	5114	4713	401
3	西宮ストークス	34	26	.567	7	4744	4532	212
4	アースフレンズ東京Ｚ	22	38	.367	1	4497	4746	-249
5	金沢武士団	21	39	.350	1	4451	4851	-400
6	八王子ビートレインズ	11	49	.183	10	4583	5177	-594

西地区

順位	チーム名	勝利数	敗戦数	勝率	ゲーム差	得点	失点	得失点差
1	熊本ヴォルターズ	45	15	.750	-	5237	4767	470
2	島根スサノオマジック	43	17	.717	2	4835	4409	426
3	広島ドラゴンフライズ	32	28	.533	11	4820	4850	-30
4	バンビシャス奈良	22	38	.367	10	4314	4787	-473
5	愛媛オレンジバイキングス	20	40	.333	2	4847	5094	-247
6	香川ファイブアローズ	19	41	.317	1	4455	4877	-422

Ｂ３ リーグ戦最終順位

順位	チーム名	勝利数	敗戦数	勝率	ゲーム差	得点	失点	得失点差
1	大塚商会越谷アルファーズ	11	1	.917	-	1057	843	214
2	東京エクセレンス	11	1	.917	0	985	881	104
3	東京サンレーヴス	7	5	.583	4	969	884	85
4	埼玉ブロンコス	5	7	.417	2	912	976	-64
5	岐阜スゥープス	4	8	.333	1	826	892	-66
6	岩手ビッグブルズ	3	9	.250	1	843	930	-87
7	鹿児島レブナイズ	1	11	.083	2	879	1065	-186

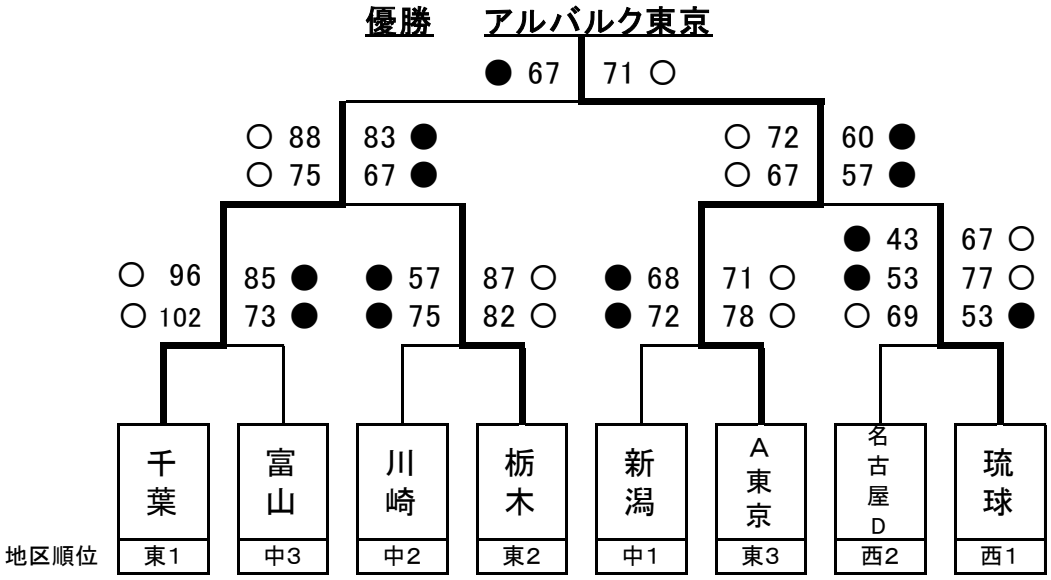
B. LEAGUE CHAMPIONSHIP 2018-19 の結果

B. LEAGUE CHAMPIONSHIP 2018-19 は、クオーターファイナルが 2019 年４月２６日～４月２９日に船橋アリーナ、ブレックスアリーナ栃木、沖縄市体育館、アオーレ長岡の各会場で２戦先勝方式により行われた。

これに勝ち上がった４チームによるセミファイナルが、５月３日～７日の間、出場順位上位チームのホームで２戦先勝方式により行われた。

ここで勝ち上がった東地区 1 位の千葉ジェッツとワイルドカード上位のアルバルク東京によって、B. LEAGUE FINAL(ファイナル)が１戦決着方式により 2019 年５月１１日に横浜アリーナで行われた。

収容観客数１３，０００人の横浜アリーナだったが、この日のチケットは全て前売りで完売して当日券はゼロ。もしかしたら当日券で入場できるかもと思って訪れたファンもいたようだが、入場できずに帰ったファンも多かった。



ファイナルゲーム

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
千葉ジェッツ	15	18	12	22	67
アルバルク東京	16	19	29	7	71

千葉対A東京の対戦となったファイナルは、偶然にも昨年と同じクラブの戦いとなり、会場は開始前からもの凄い熱気に包まれた。

超満員の会場に入れずテレビ観戦した方も多かったと思われるが試合は白熱、前半はお互いに一歩も譲らず互角だったが、後半第３クォーターで千葉の僅かな隙に付け込んだA東京が抜け出し、第３クォーター終了時は６４：４５と１９点のリードを奪う。

このまま勝負ありやと思われたが、そこから千葉が猛反撃し、このゲーム残り２７秒で富樫選手の３ポイントシュートが決まり６７：６９と２点差に迫ると会場は興奮の坩堝と化す。

勝負となった第４クォーターのＡ東京は、千葉必死の追い上げにも動ぜず、マイペースで竹内選手の３ポイントシュートなどを成功させてリードをキープ、２点差まで迫られたのちには、カーク選手がフリースローを確実に決め、アルバルク東京が７１：６７で千葉ジェッツを下し２連覇を果たした。

スタッツデータによれば、アルバルク東京のフィールドゴール・３ポイントシュート・フリースローの各成功率が 40.0%・47.4%・50・0%、リバウンド４９本に対して、千葉ジェッツは成功率 40.3%・25.9%・66.7%、リバウンド３６本であった。アルバルク東京は３ポイントシュート９／１９と成功率が高く、竹内選手の２／２、田中選手の３／５が貢献している。千葉ジェッツは３ポイントシュートで田口選手の４／７は優秀だが、チームとしては７／２７で成功率が低く、リバウンド本数と共にアルバルク東京に敗れている。

なお、ＭＶＰには、得点１２、リバウンド１２、アシスト６とファイナルで大活躍したアルバルク東京の馬場雄大選手が選ばれた。

優勝チャンピオントロフィー

優勝クラブに贈られるチャンピオントロフィーはティファニーがデザインと制作。

バスケットボールがゴールネットに吸い込まれる瞬間を表現したデザインとなっているとのこと。

台座に配されたスターリングシルバー製のプレートには優勝チームの名前やシーズンが刻印される。

【トロフィーのサイズ】
・高さ…約 73cm　・幅…約 36cm

【ティファニー】
・1837 年にニューヨークで創業した国際的に著名なジュエラー

2018～19 シーズン終了

このファイナルをもってＢリーグは今シーズンの幕を閉じたが、その人気は上昇中で、総観客動員数は昨シーズンの２５０万人に対して、今シーズンは２５９万人と増えた。

５月１５日に開催のＡＷＡＲＤ　ＳＨＯＷでは今季レギュラーシーズンの最優秀選手に千葉ジェッツの富樫勇樹選手が選ばれた。

人気が高まるにつけＢ１リーグに対する意見も様々で、激戦区の東地区にチームが偏っているのではといったことや、チャンピオンシップに関してセミファイナルが３戦２勝先取方式なのに、ファイナルだけが一発勝負なのは納得できないという人も多いようだ。

Ｂリーグ発足当初、各クラブは5,０００人以上を収容できるアリーナを準備することが決められたが、クラブによってはもう5,０００人では不足するような事態も出てきている。

ちなみに今回開催の横浜アリーナは、１３，０００人収容だが、稼働率は年々上昇していて年間を通してあまり空きが見当たらないという。今後の隆盛を図るためにも、これまでの日本におけるアリーナの収容人数を一考する時期に来ているように思われる。

Wリーグ 2018～19 シーズン結果

［編集部］

Wリーグは、３月３日のプレーオフファイナルを持って 2018～19 シーズンを終えている。今シーズンは昨シーズンと比べて上位チームと下位チームの差が若干縮まったが、トップを走ったＪＸ－ＥＮＥＯＳの強さが目立ち、２位以下のチームのつぶし合いともなった。

これまでのシーズンと少し異なり、プレーオフにはレギュラーシーズン上位８チームが出場し、セミクォーターファイナルから始まったが、セミファイナルへ進出したのはレギュラーシーズンの上位４チームであった。

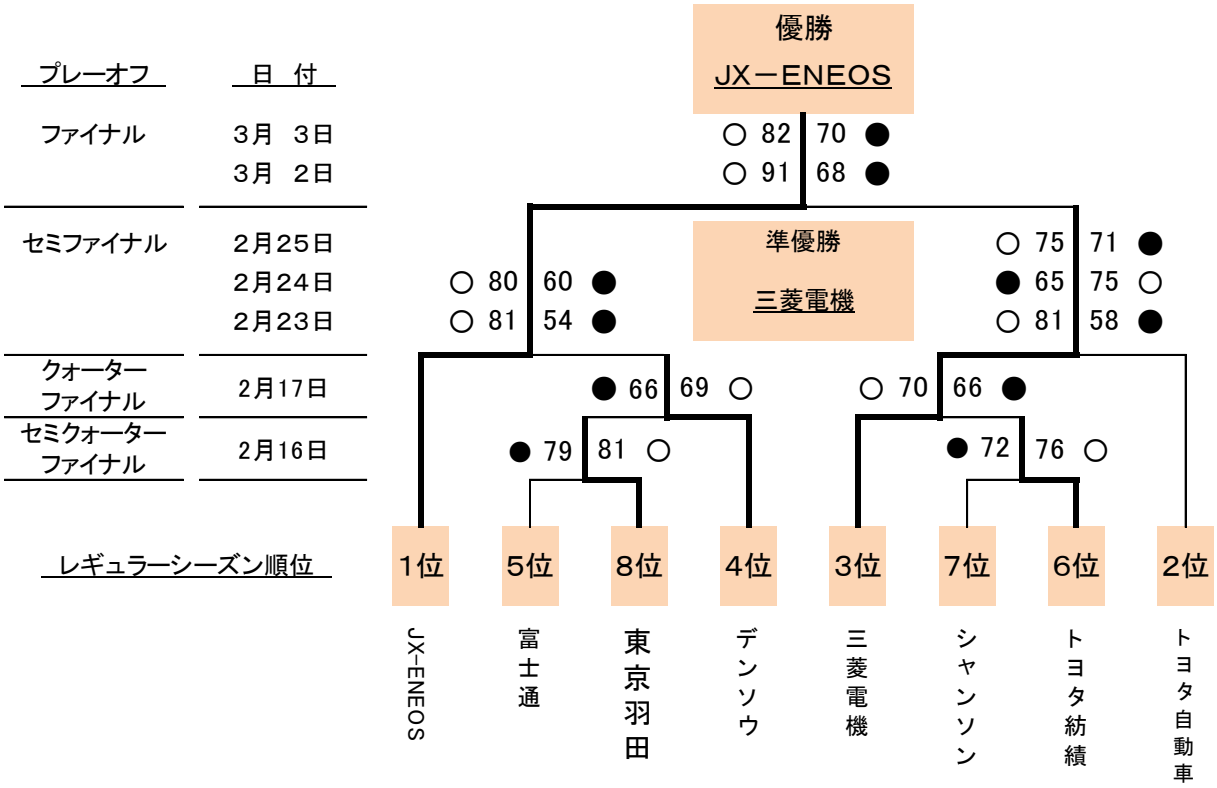
ファイナルへ進んだチームの注目は三菱電機で、セミファイナルで２位のトヨタ自動車を２勝１敗で下してファイナルへ進出した。しかし、初めてWリーグファイナルへ進んだものの１位のＪＸ－ＥＮＥＯＳには歯が立たず、２連敗でファイナルを終えた。

優勝したＪＸ－ＥＮＥＯＳは、日本リーグ時代を含めて２２回の優勝を勝ち取り、Wリーグにおいて前人未踏の１１連覇という偉業を成し遂げた。

ＪＸ－ＥＮＥＯＳのデータを見てみると、レギュラーシーズンリーグ戦では２０勝２敗で勝率９０％を越し、２位トヨタ自動車１８勝４敗、勝率８２％を上回る成績。

レギュラーシーズンで１試合当たりの平均得点は８４．４、平均失点は６０で、２位トヨタ自動車の平均得点７６、平均失点６２よりかなり上。

しかしながら、Wリーグの得点ランキングベスト１０に入っているのは渡嘉敷選手だけで、チーム全体としての能力が相当高いことを物語っている。



ジャカルタ会１０年

［編集部］

1962 年インドネシアの首都ジャカルタで第４回アジア競技大会が開催され、バスケットボール日本代表も出場、準優勝を果たしている。

そのアジア大会に出場された代表選手の面々が、当時を懐かしんで集まったのが「ジャカルタ会」。第１回目が 2010 年だったので今年で１０年目を迎えた。

この会にジャカルタに同行していない振興会前会長の佐室有志さんと前理事長の小澤正博さんが初回からゲストとして参加、ジャカルタで活躍された皆さんと懇親を深めている。

最近のニュースで、日本が協力してジャカルタで初めて地下鉄が開通し、交通渋滞解消に一役買ったことが報道されたが、アジア大会が開催された 1962 年当時のジャカルタは、まだ発展途上で日本から参加した選手諸侯は相当戸惑ったようである。

市内を流れる川は黄色く濁っていたが、市民はその川で洗濯をしたり、食器を洗ったりしていたそうである。

その一方では大会中に、スカルノ大統領が全選手約２,０００名を宮殿に集め、全員と握手を交わし、レセプションを開いてくれたこともあったという。

当時の代表監督であった故吉井四郎さんから「現地の水は絶対に飲むな」と言われ、衛生に最大限の注意を払っていた選手たちも何人かは下痢に襲われ、正露丸が役に立ったという話もあった。この会が開かれるたびに必ず話題に上るのが、この監督であった故吉井さんのコーチングのことである。吉井さんはその後も代表監督を務められ、1964 年東京オリンピックでも日本代表チームの指揮をとられている。

吉井さんのコーチングは多くの人が知るところであるが、一つ一つのプレー練習に対して何故このような練習を行うのかということを、全ての選手に説明して理解を深めたうえで実行させたことで有名である。アメリカに出向いてコーチ学を勉強された吉井さんは、その理論性に優れ、選手の信頼度も高かったと言われている名将。

ジャカルタ会１０年の節目にあたる今年は、３月に集いがありお元気なメンバー６名の方々が集まってバスケット談義に花が咲いたが、かつての日本代表選手だったこともあり、その中身は技術的なことも多かった。

ジャカルタ会メンバー

大島康邦（日本鉱業・故人）
鎌田正司（日本鋼管）
＊川井琢　（八幡製鉄）
＊木内貴史（慶応大学）
木村厚之助（日本鋼管）
＊桑原　信（日本鋼管）
＊志賀政司（日本鉱業）
＊中村邦彦（日本鉱業）
奈良節雄（日本鉱業・故人）
兼田孝夫（松下電器）
若林　薫（日本鋼管・故人）
＊丸山博司（八幡製鉄）

出席メンバー

＊は今回の出席者、（ ）内は 1962 年の所属チーム

訃　　報

坂本　博　氏　　平成３１年３月１０日　　享年　８４

長年にわたり、振興会会員として、日本バスケットボール界発展のため多大のご尽力を賜りました。
ここに、謹んで哀悼の意を捧げ、ご冥福をお祈り申し上げます。

坂本　博　さんを偲ぶ

小澤　正博

振興会理事で編集委員として活躍されていた坂本博さんが去る３月１０日逝去されました。

最近になって編集会議にも出席されなくなり心配していたところですが、訃報に接して誠に残念な思いです。

私が坂本さんと出会ったのは昭和３５年(1960)の春、東京神田にある国民体育館で関東実業団連盟春のリーグ戦のときでした。

その頃、代々木第二体育館はまだ建設されておらず、国民体育館がバスケットボールのメッカ的存在でした。

私が審判を始めて公認審判の資格を取ってすぐのこと、関東実業団リーグ戦１部リーグ、鐵興社対三井生命の試合を吹いて坂本さんの存在を知りました。坂本さんの左腕から繰り出すロングシュートが次々と決まり、審判をしていても驚きのシュート成功率でした。当時３ポイントシュート制度がルールになかったのですが、仮に３ポイントに置き換えるとその点数たるや大変な数字になるでしょう。

坂本さんは昭和９年栃木県のご出身で、宇都宮高校から早稲田大学へ進まれ、大学時代からシューターとして活躍されました。早稲田大学は昭和３２年正月のオールジャパンで、決勝まで進出して日本鋼管と対戦、８１対９７で敗れてはいるものの、坂本さんはその試合で３７得点を挙げた名シューターでした。

栃木県のご出身とあって、昭和５５年(1980)に開催された栃の葉国体で栃木県の強化委員長を務められ、成年男子栃木県代表チームの監督として地元の躍進に貢献されています。

坂本さんが所属していた実業団の鐵興社バスケットボール部はやがて解散の憂き目にあい、坂本さんは、現役から引退されましたがバスケットボールへの情熱は失せることなく、振興会に入られてからも大変熱心に活動されてきました。理事・編集部員として

細かい仕事を率先して引き受けられ、写真や統計部門においては右に出る人がいない程の仕事ぶりでした。その結果が会員に配布されているバスケットボールプラザに表れています。

坂本さんは、大変温和な性格の方でおられた一方、何事にもコツコツと向き合われプラザ編集作業において、何度も困難な業務を成し遂げていらっしゃいました。

あまりお酒が強い方ではなかったと思いますが、編集会議や理事会が終わった後、近くのイタリアンレストラン・サイゼリアでワインを飲みながら会話をすることを好まれ、ルールやその解釈についてよく議論したものです。

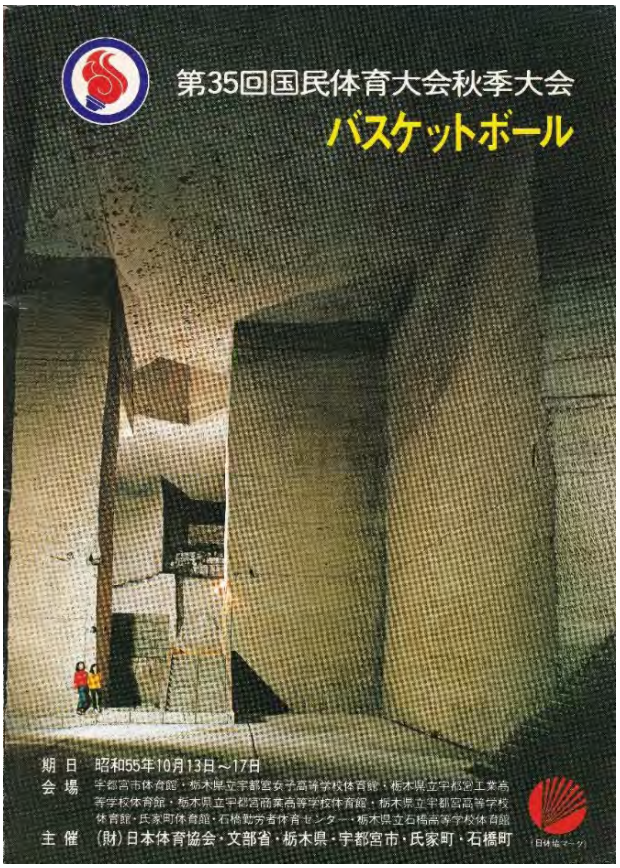
バスケットボールにおいてシュート技術に優れていた坂本さんは、一方では人の面倒をよく見る方でした。東日本大震災の際、住んでおられた千葉県浦安市は激しい地盤の液状化現象に襲われ、下水管の損壊によって生活排水が一切流せなくなり、大変な目に遭われています。

この被災の復興にあたり、地元被害者団体の結成と関係官庁への陳情などに尽力され、現在では通常の生活に戻られておられました。

お元気だった坂本さんも晩年になって健康を害され、入退院を繰り返されていたようですが、少し快方に向かうと振興会活動にも参加され、相変わらずのバスケット情熱家ぶりを発揮しておられましたのに、急いで鬼籍に入られたことは断腸の思いです。

これからは急がずゆっくりとお休みください。

合掌



9. 栃木県

監督 坂本 博

選手名	番号 濃	番号 淡	身長
小島俊一	4	4	173
高村寿宏	5	5	175
永田耕二	6	6	184
山崎操	7	7	185
遠藤嘉津敏	8	8	173
千村隆	9	9	180
中島正男	10	10	191
福田精	11	11	186
香山隆之	12	12	186
山田洋司	13	13	171
木村和正	14	14	201
阿久津裕	15	15	182

事務局だより

［総務部］

◇ **会費納入のお願い**

新年度に入りました。会費納入をよろしくお願いいたします。
振興会は会員の皆さんの会費によって運営されておりますので、早めの納入に、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

振込み口座番号

ゆうちょ銀行　　００１００－３－３１６０３５
ＮＰＯ法人日本バスケットボール振興会

三菱ＵＦＪ銀行　　神保町支店　　普通預金口座　　１６８４７４３
特定非営利活動法人日本バスケットボール振興会

みずほ銀行　　丸の内中央支店　普通預金口座　　１００４６８７
特定非営利活動法人日本バスケットボール振興会

◇ **都道府県協会の皆様へ**

「バスケットボールプラザ」発行費用一部ご負担をお願いしたところ、複数の都道府県から協力のお申し出があり、負担金の振り込みも行われています。
発行費用の一部ご負担金は、年額 2000 円ですので、ご了承の節には上記取引金融機関にお振り込みをお願い申し上げます。
また、都道府県大会などにおける試合の結果や、イベント報告など告知したい事柄がありましたら、事務局へお知らせください。その際には都道府県の頁を設けて、積極的に掲載させていただきます。

◇ **第１２回シニアバスケットボール交歓大会 in YOYOGI**

令和元年の大会は、７月４日（木）～７月５日（金）に国立オリンピック記念青少年総合センター体育館で開催いたします。積極的にご参加ください。

◇ 本誌８０号・８１号に掲載の「出場男子オリンピアン座談会」に出席頂いた斎藤文夫氏が３月２５日に急逝されました（享年６５）。ご冥福を祈ります。
斎藤氏は、父親が外国人で高校時代１９９ｃｍの長身のためバスケットに誘われ、その後中央大学に進んでバスケット部に入りました。リバウンドを期待されて日本代表入りし、そのあたりについては座談会にも触れられています。中大から松下電器へ入社して活躍したのち、中大のコーチを務めました。

◇ 本誌５５号に掲載の「日本人初のオリンピック決勝戦審判」で紹介されている松尾武司氏が平成３０年１２月６日に逝去されました（享年８７）。ご冥福を祈ります。
松尾氏は、１９５９年、当時実業団のトップ、日本鋼管の選手を引退して審判の資格を獲得し、１９６４年東京オリンピック決勝の米・ソ戦で笛を吹いた国際審判員です。

プラザ　こぼればなし

◇　2020 オリンピック東京大会で男子日本代表の開催国枠出場が心配されていたが、FIBA 理事会で日本の開催国枠出場が決まった。男子については 1974 モントリオール以来となる４６年ぶりの出場、バスケットボールファンにとってこれ以上の喜びはない。
出場するからには、アメリカ在留中の選手を含めてベストなメンバーで世界に立ち向かってもらいたいものだ。
ワールドカップ予選で、オーストラリアに勝利したのだから予選ラウンド突破も夢ではなさそう。

◇　全米大学体育協会(NCAA)1 部に所属する、ゴンザガ大学に留学中の八村塁が、４年生となる来季、ＮＢＡを目指すことを表明。これは、アメリカで卒業を待たずにドラフト指名を受けることが可能な「アーリーエントリー」制度によるもの。
６月２０日のＮＢＡドラフト会議でＮＢＡ球団から指名されてＮＢＡ入りすれば、日本人初の偉業となる。
宮城県明成高校からアメリカの大学に留学し、今季ウェストコースト・カンファレンスで３７試合に出場して最優秀選手に輝いている選手。2020 オリンピック東京大会でも男子日本代表選手として活躍してもらいたいものだ。

ＮＰＯ法人
日本バスケットボール振興会
〒１０１―００５１
東京都千代田区神田神保町１－４０
豊明ビル　３０１号室
電話／ＦＡＸ（03）3219－9311
メール　contact@jbbs.jp